

# ヨブ記

並木浩一 訳

## 序 曲

第1章 1ウツの地にひとりの人がいた。その名をヨブと言った。その人は完全に、まっすぐであり、神を畏れ、悪を遠ざけていた。2彼には、七人の息子と三人の娘が生まれた。3彼の家畜保有は羊が七千頭、らくだが三千頭、牛が五百対、雌ろばが五百頭で、また非常に多くの使用人がいた。この人は東の子らの内で最も大物であった。

4彼の息子たちはそれぞれ自分の日に各自の家で宴を催し、使いを送って三人の姉妹をも呼び、彼ら一同で食事をして飲むのが常であった。5宴の日が一巡することにヨブは使いを送って息子たちを呼び、彼らを聖別し、その朝は早く起きて彼らすべての数に応じた燔祭を献げた。ヨブはもしかすると私の息子たちは罪を犯し、心の中で神を讃えたかもしれない、と思ったからである。ヨブはいつもこのように行った。

6その日になり、神の子らがやって来て、主の前に立った。サタンもまたやって来て、彼らの中にいた。7そこで主はサタンに言った、「君はどこから来たかね」。サタンは主に答えて言った、「地上を巡回し、そのあちこちを歩き回って来ました」。8主はサタンに言った、「君はわが僕ヨブに気づいただろうか。地のどこにも彼のような者はいない。なにしろ彼は完全に、まっすぐであり、神を畏れ、悪を遠ざけているのだ」。

9するとサタンは主に答えて言った、「ヨブが理由なしに神を畏れるものでしょうか。10あなたは彼を、その一家を、またその所有物を護るために、垣で囲っているではありませんか。あなたが彼の手の業を祝福するので、彼の家畜は地に満ちています。11そこでです、あなたが手を差し向けて彼の全財産を撃つてはいかがですか。彼はあなたに面と向かって讃えるに決まっています」。12主はサタンに答えて言った、「では、君の手に彼のものすべてを委ねることにしよう。ただし、彼を手にかけることはまかりならぬ」。こうして、サタンは主の前から出て行った。

13彼の息子たち、娘たちが長兄の家で食事をし、葡萄酒を飲んでいた日のことであった。14ヨブのところ一人の使者がやって来て言った、「牛が耕し、その傍らで雌ろば

が草を食べていると、15シエバが襲ってきて、それらを奪い去り、剣を振るって若者たちを打ち殺しました。私一人だけが難を逃れ、あなたにご報告します」。

16この者がまだ話し終えないうちに、もう一人が来て言った、「神エロヒムの火が天から落ちてきて、羊の群れと若者たちを焼き滅ぼしました。私一人だけが難を逃れ、あなたにご報告します」。

17この者がまだ話し終えないうちに、もう一人が来て言った、「カルデア人が三隊に分かれてらくだの群れを襲ってこれを奪い、若者たちを剣で打ち殺しました。私一人だけが難を逃れ、あなたにご報告します」。

18この者がまだ話し終えないうちに、もう一人が来て言った、「あなたの息子たちと娘たちが長兄の家で食べ、葡萄酒を飲んでいました。19すると突然、大風が荒野を渡って襲来し、家の四隅を揺るがせ、若者たちの上に家が崩れ落ち、彼らは死にました。私一人だけが難を逃れ、あなたにご報告します」。

20そこでヨブは立ち上がり、その衣を裂き、頭髮を剃り、地に伏して拝し、21言った、

「私は裸で母の胎を出た、裸でかしこに帰ろう。」

主ヤハウェが与え、主ヤハウェが取り去りたもう、主ヤハウェの名は賞め讃えられよ」。

22これらのすべてに際して、ヨブは罪を犯さず、神エロヒムに対しておかしなことを言わなかった。

第2章 1その日になり、神エロヒムの子らがやって来て、主ヤハウェの前に立った。サタンもまたやって来て彼らの中におり、主ヤハウェの前に立った。2そこで主ヤハウェはサタンに言った、「君はどこから来たかね」。サタンは主ヤハウェに答えて言った、「地上を巡回し、そのあちこちを歩き回って来ました」。3主ヤハウェはサタンに言った、「君はわが僕ヨブに気づいただろうか。地のどこにも彼のような者はいない。なにしろ彼は完全で、まつすぐであり、神エロヒムを畏れ、悪を遠ざけており、依然、その高潔さを固く保っている。だが君は彼に敵対するようわたしを唆し、彼を呑み込ませようとした。理由なしに、だ」。

4するとサタンは主ヤハウェに答えて言った、「皮の保護には皮ですね。人は誰でも自分のいのちを護るためなら、自分のものすべてを差し出します。5そこでです、あなたが手を差し向けて彼の骨と肉を撃ってはいかがですか。彼はあなたに面と向かって讃えるに決まっています」。6主ヤハウェはサタンに答えて言った、「では彼を君の手に委ねることにしよう。ただし、彼の命は護れ」。

7 サタンは主の前から出て行った。彼はヨブを足の裏から頭の天辺までいやな出来物で傷めつけた。8 ヨブは土器のかげらを手にし、身体をかきむしった。彼は灰の中に座っていた。

9 彼の妻が彼に言った、「あなたは依然、自分の高潔さを固持されます。それなら、神を讃えて死になされ」。

10 ヨブは彼女に言った、「あなたが語るのには愚かな女の誰かが語るようだね。われわれは神から幸いを受け取るのだから、災いをも受け取るべきではないか」。これらのすべてに際して、ヨブはその唇によって罪を犯さなかった。

11 ヨブの三人の友が、彼に臨んだこれらすべての災いを耳にして、各自の居所からやって来た。テマンの人エリファズ、シユアハの人ビルダド、ナアマの人ツォファアルである。彼らは共に行って彼に同情を表し、彼を慰めることにした。12 彼らは遠くから目を凝らして見たが、彼がヨブであると識別できないほどであった。彼らは声を挙げて泣き、各自その着物を裂いて、塵を彼らの頭上で天に向けて撒き散らした。13 彼らは七日七夜、ヨブと一緒に地に座っていたが、彼に話しかける者は一人もいなかった。その苦痛がはなはだしく大きいを見たからである。

## ヨブの独白 第1回

第3章 1 そのことがあつて後、ヨブは口を開いて、自分の日を呪った。

2 ヨブは応答して言った。

3 滅びよ、私が生まれたその日と、

益荒男が生まれたと告げたその夜は。

4 その日は、暗闇があれ、

高きに在す神がこれを訪ねず、

昼の光がこれを輝かすなかれ。

5 暗闇と暗黒がこれを取り戻せ、

黒雲がそれを覆い尽くし、

日を苦渋にする者たちの流儀でその日を脅かせ。

6 その夜は、闇がこれを捕獲して、

年の日々を楽しまず、

月々の一夜に加えることなかれ。

7 まことに、その夜は不妊となり、

歓声が拳がることなかれ。

8 呪わせよ、日に呪いをかける者たちに、

レビヤタンを起こすのに巧みな者たちに。

9 暗闇になれ、黄昏の星たちも、

光を待ち望んでも叶えられることなく、

曙のまばたきを見ることなかれ、

10 まことに、それが私を孕んだ胎の戸を閉ざさず、

わが眼に災難を隠さなかったがゆえ。

11 なぜ、私は死んで子宮を離れなかったのか、

胎を出るや否や、息絶えていなかったのか。

12 なにゆえ、両膝が私を待ちかまえていたのか、

どうして両の乳房があつて、私がそれを吸つたのか。

13 それがなかったなら、今、私は横たわつて安らかであり、

眠りに入つて後、安息を得ているであろうに、

14 地上の王たちや参議たち、

自分たちのために廃墟を立て直した者たちと一緒に、

15 自分のために金を集めた君侯たち、

その館を銀で満たした者たちと一緒にであろうに。

16 どうして、私は密かに埋められる死産児でなかったのか、

直ちに光を見ることのない赤子でなかったのか。

17 かしこでは、邪悪な者たちも騒動を止め、

かしこではまた、力衰えた者も憩いを得、

18 捕らわれ人たちも皆、共に安らかであつて、  
酷使する者の声を聞かない。

19 小物も大物も、かしこでは同じで、

隷従者もその主人から解放されている。

20 なにゆえ、苦しむ者に光が、

魂の苦しみを味わう者に命が与えられるのか。

21 彼らは死を待っても、それが与えられないので、

隠されたものの中からそれを掘り探ろうとする。

22 彼らの喜びが頂点に達するのは、

彼らが墓を発見して歓呼する時なのに、

23 その道が隠されている益荒男に対して、

神エロムは彼を閉じ込めたのだ。

24 まことに、わが呻きはわが食事に先立ち来たり、

わが叫びは水のように注ぎ出される。

25 まことに、私が恐れていたことが私に臨み、

私が怖じていたものが私を襲つた。

26 私は憩うことなく、安らかでなく、

鎮まらず、騒動に襲われる。

## 第1回対論

### エリファズの弁論 第1回

第4章 「そこで、テマンの人エリファズは応答して言った。

2 誰かが一言あなたに語ると、あなたは弱り切るだろうか。  
これらの言葉を控えるのは誰にもできないだろう。

3 まことに、あなたは多くの人を教導し、  
数々の弱々しい手を強くしてきた。

4 あなたの言葉はよろめく者を起こし、  
かみ込む者の膝には力を与えてきた。

5 とところが、いざそれが臨むと、あなたは弱り切り、  
あなたの身に触れるとうろたえる。

6 あなたの畏れが、あなたの基盤ではなかったのか、  
あなたの歩みの完全さが、

あなたの望みではなかったのか。

7 思い出してみよ、無実の者が滅びることがあったか、  
まっすぐな人で破滅した者がどこかにいただろうか。  
8 私が見るところ、不法を耕す者、

9 災難を蒔く人は、その実を刈り取っている。  
彼らは神の息によって滅び、

彼の怒りの息吹きによって消失する。

10 獅子の咆吼、猛き獅子の哮り声、

若獅子の牙は砕かれ、

11 雄獅子は獲物がなくて滅び、

雌獅子の子らは散り散りになる。

12 この私には言葉が忍び入り、

私の耳はそこからの囁きを捉えた。

13 夜の数々の幻によって、私は胸騒ぎを覚え、

人々が深い眠りに落ちる時、

14 恐れとおのきが私を襲い、

わが骨のすべてを震わせた。

15 霊が私の顔を掠めたので、

私は身の毛がよだつた。

16 それは立っていたが、

その姿を私は見分けられなかった。

一つのかたちが私の目の前にあった。

静寂があり、そして声。それを私は聞いた。

17 人は神よりも正しいだろうか、

人間はその造り主よりも清いだろうか。

18 そもそも彼はその僕たちを信頼しないし、

御使いたちにも過ちを認めるのだから、

19 なおさらのこと、泥の家に住む者たちは、

塵の上に彼らの基を据える者たちは。

彼らは衣蛾より早く潰され、

20 朝から夕方までの間に砕かれて、

永久に滅びて、忘れ去られるだけだ。

21 確かに、彼らの命綱がそこから引き抜かれると、

知恵は役立たずのまま、彼らは死んでいく。

**第5章** 1 呼んでみよ、あなたに應える者がいるだろうか、

あなたは聖なる者たちの誰に向き合おうとするのか。

2 まことに、憤りが愚か者を殺し、

妬みは浅はかな者を死なせる。

3 この私は愚か者が根づいているのを見て、

その住まいを忌々しく思ったところ直ちに、

4 安泰はその子らから遠ざかり、

彼らは門で砕かれて、救助者がいない。

5 その収穫物を飢えた者たちが食べ尽くし、

茨から得たものを彼らに取り上げ、

渴いた者が彼らの富に焦がれる。

6 まことに、不法が塵から出てくることはないし、

災難が大地から生え出ることもない。

7 まことに、人間は災難に生まれついでいる、

レシエフの子らは高く飛ぶ。

8 しかし、私なら神キミに尋ね求め、

私のことは神エロヒムに委ねる。

9 彼は偉大なことを行う方、それは究め尽くせず、

その不思議な業は数え切れず、

10 彼は地の面に雨を降らせ、

野の面に水を行き渡らせ、

11 抑圧された者を高いところに据え、

悲しむ者を引き上げて安泰に導き、

12 狡猾な者たちの計画を破って、

彼らが成果を手にはできないようにし、

13 賢者たちを自らの悪巧みで捕らえる。

曲者たちの企みは挫折し、

14 昼間に暗闇に出会い、

真昼にも夜のように手探りする。

15 彼は剣から、彼らの口から、

強者の手から貧しい人を救い出す。

16 それゆえ、無力な人にも望みがあり、  
不義はその口を閉ざす。

17 おお、何と幸いなことよ、神が訓戒するその人は、

あなたは全能者の懲らしめを退けてはならない。

18 まことに、彼は傷つけても、また包み、  
撃つても、その手はまた癒して下さる。

19 苦難に六度出会っても、彼はあなたを救い、  
七度出会っても、災いがあなたを打ち据えず、

20 飢饉の時には、あなたを死から、

戦の時には、あなたを剣の手から贖い出す。

21 あなたは舌の鞭から隠され、  
破壊が来ても免れ、恐れることがなく、

22 荒廃と飢えとをせせら笑い、  
地の獣たちをも恐れない。

23 あなたは畑地の石ころと契約を結び、  
野の獣たちがあなたに睦み親しむからだ。

24 あなたは自分の天幕の平穩を確認し、  
囲いを見まわっても行方不明がなく、

25 あなたの子孫は数多く、

あなたから出る人々は大地の青草のようになると知る。

26 あなたは充実の内に墓に入る、

あたかも穀物の束が時期に適って積まれるように。  
27 われわれの究め尽くしたのはこの通りだから、  
あなたはこれを聞き、よく認識するがよい。

### ヨブの弁論 第1回

第6章 「そこで、ヨブは応答して言った。

2 ああ、私の憤りがしつかりと量られ、

私の災いも一緒に秤に載せてもらえれば、

3 今、それが海の砂よりも重いことを示せるのだ。

それゆえに、私の言葉はかくも過激なのだ。

4 まことに、全能者の矢の数々が私に刺さっており、

私の霊はその毒を飲み、

神の威嚇が私を包囲している。

5 野ろばは青草があれば、いなくだろうか、

牛はその飼い葉があれば、唸り声を挙げるだろうか。

6 味の抜けたものを、どうして塩なしで食べられよう、

あの草の汁に味がついているだろうか。

7 私の喉は、それに触れるのさえ嫌がる、

それらは私の腐った食物のようなものだ。

8 ああ、私の願いが叶えられ、

神が私の望みを聞き入れて下されば、

9 神が私を打ち砕くことを良しとし、

その手を引いて、私を断つて下されば。

10 そうなれば、私はまだ慰められ、

仮借ない苦しみの中でも小躍りするものを、

私が聖なる者の言葉を隠して置かないがゆえに。

11 わが力がどれほどのものなので、私は待たねばならず、

私がどんな終局を迎えるので、

わが魂は耐えねばならないのか。

12 わが力は石の力なのだろうか、

わが肉体は青銅なのだろうか。

13 一体、わが助けがわが内にあるとでもいうのか、

成功の手立てが私から取り去られているではないか。

14 落胆している者には、その友から誠実を示すものだ、

彼が全能者への畏れを棄てていようともし、

15 わが兄弟たちはワデイのように欺くのだ、

流れが消えた後の空谷のように。

16 それは氷によって濁り、

水面を雪が隠しているが、

17 季節になると溶けて消え去り、

暑くなるとそのところから消滅する。

18 隊商たちは彼らの道を転じ、

荒れ地に上がって滅びる。

19 テマの隊商たちは目を凝らし、

シエバの隊列はそれを希求したが、

20 当てにしたために恥じ入り、

そこにたどり着いて狼狽する。

21 今、あなたがたはそのようにならなかつたのか。

あなたがたは恐ろしいものを目にして、恐れたのだ。

22 一体私があなたがたに言っただろうか、

「何か持つてこい、

あなたがたの財産から私のために寄せ、

23 敵の手から私を救え、

乱暴者の手から私を贖い出せ」と。

24 私に教えてもらいたい、そうすれば沈黙する、

私がどんな過失を犯したのか、認識させてもらいたい。

25 遠慮のない言葉は、どれも気に障るもの、

あなたがたは、どんな叱責で私を咎めるつもりか。

26 あなたがたは思っているのか、

言葉で幾らでも叱責できる、

絶望した者の言葉はどれも風のようなものだ、と。

27 その上、あなたがたはこの孤児について籤くじを引き、

あなたがたの友を売りに出そうとする。

28 今、あなたがたは決心して、私に顔を向けよ、

私はあなたがたの顔を欺くようなことをしない。

29 向き直れ、不義があつてはならない。

もう一度言う、向き直れ、

そこに私の正義が懸かっている。

30 私の舌に不義があるのか、

私の口が破滅を悟れないことがあるのか。

第7章 1 地上の人は苦役に服してはいないか、

その一生は日雇い人の日々ようではないか、

2 奴隷のように影を喘ぎ求め、

日雇い人がその賃金を望むようではないか。

3 正にそのように、空虚な月日が私の相続分とされ、

苦難の夜が私に割り当てられている。

4 臥してから、私は考える、「いつ起きられるだろう」と。

しかし夕暮れはたつぷり続き、私は暁までのたうつ。

5 わが肉は蛆と塵の土くれを着て、

わが皮膚は静まって、また溶け出す。

6 月日は機の梭ひよりも速く、

糸が尽きればわが日々も終わる。

7 覚えて欲しい、わがいのちが息に過ぎないことを。

わが目が再び幸いを見ることはない。

8 私を見る者の目が、私を認めることはなく、

あなたの目が私に向けられても、私はもういない。

9 雲が消えて去り行くように、

陰府に下る者が上つて来ることはない。

10 彼が再びその家に戻ることはなく、

彼がかつていた場所も、彼を再び識別することはない。

11 だが、この私はわが口を制止することなく、

わが胸が締めつけられるままに語り、

わが魂の苦しみの中から嘆き訴えたい。

12 一体私が海だというのか、それとも竜なのか、

あなたは私に対して見張りを置く。

13 そんな時私は思う、わが寢床が私を慰めてくれるだろう、

わが臥所<sup>ふしど</sup>が私の嘆きを引き上げてくれるだろう、と。

14 だが、あなたは数々の夢によって私を困憊<sup>こんぱい</sup>させ、

数々の幻によって怯えさせる。

15 わが魂は選び取る、息の根を止められることを、

わが骨よりも、むしろ死ぬことを。

16 私は拒む、いつまでも生きようとは思わない。

私を放つて置かれよ、わが日々は空疎<sup>くそ</sup>なのだから。

17 人は何者なので、あなたはこれを育て、

これをあなたの心に留め置くのか。

18 あなたは朝ごとにこれを尋ね、

絶え間なくこれを検査するののか。

19 いつまで、あなたは私を凝視して止めず、

唾を飲む間も、私から目を離さないのか。

20 私があなたに罪を犯したとて、あなたに何ができるのか、

人間の見張りよ、

なぜなのか、あなたが私的に据えるのは、

私が私にとって重荷となるのは。

21 なぜなのか、あなたが私の罪過を赦さず、

私の咎を見過ごさないのは。

今、私は塵に伏すところなので、

あなたが私を探し求めても、もういないはず。

## ビルダドの弁論 第1回

第8章 1そこで、シユアハの人ビルダドが応答して言っ

た。

2 あなたはいつまで、そのようなことを語るのか。

あなたが口にする言葉は荒々しい風だ。

3 神<sup>エル</sup>が公正をねじ曲げるだろうか、

全能者が正義をねじ曲げるだろうか。

4 もし、あなたの息子たちが彼に罪を犯したならば、

彼が彼らの罪過の手に彼らを引き渡したはずである。

5 もし、あなたが神<sup>エル</sup>に向かって切に求め、

全能者<sup>シヤッタイ</sup>に向かって憐れみを切望するならば、

もし、あなたが清く、また正しいのであれば、

まことに、彼はあなたのために起き上がり、

あなたの正義の住まいを修復して下さる。

7 あなたの始めは小さくても、

あなたの終わりは極めて大きくなる。

8 さあ、先の世代に問いたですがよい、

彼らの父祖たちが究めたところを検証したまえ。

9 われわれは昨日の生まれで、知っていることなどない。

そもそも、われわれが地上にある日々は影に過ぎず、

10 あなたに教え、語ることのできるのは、

彼らではないのか。

彼らは真心から、あなたに言葉を紡ぎ出すであろう。

11 パピルスは沼沢地でなければ堂々と成長できず、

葦は水なしには大きくなれず、

12 刈り取られる前に、まだ若草のうちに、

ほかの草に先駆けて枯れてしまうではないか。

13 神を<sup>エル</sup>忘れた者たちの末路は、正にその通りで、

不敬な輩の望みも消滅する。

14 彼の頼みはたなびく蜘蛛の糸、

彼の信頼するところは蜘蛛の巣だ。

15 彼がその家に寄りかかれれば、それは持ち堪えず、

彼がそれを補強しても、それは立ちゆかない。

16 ある植物は陽光の下で瑞々しく、

農園で若枝を芽生えさせており、

17 石塚の上で根をめぐらせ、

石造りの家を目に収めているが、

18 彼がそれを呑み込み、そのところから取り去れば、

その場所は彼を呑み、

「あなたを見たことがない」と言う。

19 彼にはその生き方が喜びであっても、

塵からは、他の人々が芽を出すだろう。

20 神は<sup>エル</sup>完全な者を退けず、

悪を行う者たちの手を強くしないので、

21 彼はやがてあなたの口を笑いで満たし、

あなたの唇に歓声を溢れさせる。

22 あなたを憎む者たちは恥を被り、

邪悪な者たちの天幕は消え失せる。

#### ヨブの弁論 第2回

第9章 「そこで、ヨブは応答して言った。

2 確かにそうだ、私もそれぐらいは知っている。

神に<sup>エル</sup>対し、人はどうして正しくありうるだろう。

3 人が彼と争うことを望んだところで、

千に一つも答弁できない。

4 彼の意志は知恵に満ち、その力は強い。

そんな方に挑戦して、誰が無傷のまままでいられよう。

5 彼は人々が知らぬ間に山々を移し、

それらを、怒りをもって覆す。

6 彼が大地をその据え付け場所で震うと、

その諸々の柱は揺らぎ、

7 太陽に命ずると、それは昇らず、

星々をも覆い隠してしまう。

8 彼は独りで天を張り、

海の背中を踏みつける方、

9 アルデバランとオリオンを造り、

プレイアデスと南の星々の連なりを造った方、

10 偉大なことを行う方で、とても究め尽くせず、

その不思議な業は数え切れない。

11 彼が傍らを通り過ぎてても、私は見る事ができず、

彼が掠めても、私は彼を認知できない。

12 彼が奪い去ったなら、誰も彼を取り戻せない。

誰が彼に向かって、何をするのかと言えようか。

13 神ミロアハはその怒りを収めず、

ラハブの助太刀も彼の許に身を屈した。

14 まして、私がどうして彼に答弁できよう、

彼に対する言葉を、私が選び取れようか。

15 たとえ、私が正当であっても、彼に答弁できず、

私の訴訟相手に憐れみを乞わねばならない。

16 たとえ、私が呼び出して彼が私に答えるとしても、

彼が私の声に耳を傾けるとは信じられない。

17 彼は嵐をもって私を痛めつけ、

不当に私の傷口を広げる。

18 彼は私に息つく暇を与えず、

苦渋を注いで、私を満たす。

19 彼は強力だから、誰が見ても、力では敵わない。

裁判に持ちこんでも、

誰が私のために呼び出せるだろうか。

20 たとえ私が正しくても、わが口が私を有罪と宣し、

私が完全でも私を曲がった者とするので、

21 私が完全なのか、私自身でも分からなくなり、

わが命を拒むようになった。

22 同じことなのだ。それゆえ、私は言う、

彼は完全な者も邪悪な者をも等しく滅ぼす、と。

23 鞭が突然に命を奪っても、

彼は無実の者たちの落胆を笑っている。

24 地は邪悪な者の手に渡されているが、

彼は地を裁く者たちの顔に覆いをかける。  
彼でないなら、一体誰がそうしたのだ。

25 わが日々は飛脚よりも速やかに駆け抜け、

逃げ去って、私は幸いを味わうことがない。

26 それが過ぎ去るのは葦舟のよう、

獲物を襲う鷲のようだ。

27 私はわが嘆きを忘れようと思ひ、

顔色を変えて、明るくしようとしても、

28 私はわが苦痛のすべてに恐れを抱き、

あなたが私を無実としないのだと、察知する。

29 私が有罪と見られるのなら、

どうして空しく労することがあろう。

30 たとえ、私がシャボン草で身を洗い、

灰汁でわが両掌を清めても、

31 その後で、あなたは私を汚物に浸すので、

わが衣も私を嫌うようになる。

32 彼は私のように人ではないから、私が彼に応え、

われわれが一緒に裁判に臨むことはできない。

33 われわれの間に、仲裁者がいればよいものを、

彼が二人の上に手を置いてくれるだろうに。

34 彼が私の上から杖を取り去ってくださればよいものを、

彼の恐怖が私を威嚇しないようにと。

35 私は語りたい、彼を恐れることなしに、

私は覚悟しているのに、それができる状況ではない。

**第10章** 1 わが魂は生きることを拒む、

わが嘆きを解き放ち、わが魂の苦しみを訴えたい。

2 神エロハに向けて言いたい、われに罪ありと決め給うな、

なぜ、私と争うのか、理由を教えて欲しい。

3 あなたはお思いか、押し潰してもよいと、

あなたの手の所産を棄て、

4 あなたの両の目は肉なのか、

人が見るように見えるだけなのか、

5 あなたの日々は、人の日々のようなものか、

あなたの歳月は、人間の歳月のようなものか。

6 まことに、あなたは私の咎を追及し、

私の罪を探索し抜くが、

7 あなたはご存じではないか、私には罪がないことを、  
あなたの手から誰も私を救い出せないことをも。

8 あなたの手が私を型取って造ったのに、

あなたは周囲と一緒に、私を呑み込もうとする。

9 心に留めよ、あなたが私を粘土のように造ったことを、  
それなのに、あなたは私を塵に返そうとする。

10 あなたは私を乳のように注ぎ、

私をチーズのように固まらせたではないか。

11 あなたは私に皮膚と肉をまとわせ、  
骨と筋をもって、私を編み合わせ、

12 私に対して命と慈しみを施し、

あなたの警戒が、私の霊を見守っていた。

13 あなたがこれらのことを御心の内に秘めており、

あなたがそれらを保護していると、私は承知していた。

14 もし私が罪を犯せば、あなたは私を見据え、  
咎から私を放免しないであろう。

15 もし私が有罪であれば、我に災いあれ。

だが私は正しいのに、頭を上げることができず、

恥に満たされる。わが苦悩をご覧あれ。

16 あなたは獅子のよう、居丈高に私を追い詰めて、  
私に敵対して不思議な業を繰り返そうとする。

17 あなたは私の面前であなたの証人を次々に呼び出し、  
私に向けてその憤りを大きくし、  
私に対する軍勢を編成し直す。

私に對する軍勢を編成し直す。

18 なぜ、あなたは胎から私を引き出したのか、

誰も私を見ないうちに、

私が息絶えていればよかったものを。

19 されば、私は世にいなかった者のように、  
母胎から墓へと運ばれていたであろうに。

20 私の日々は残りわずかではないか、

思い止まり私から離れて欲しい、

くつろぎたい、わずかの間でも、

21 私がそこに赴く前にだ、行って帰ることなき地へと、

暗闇と暗黒の地、

22 闇、暗黒のうちに暗い地、

秩序なき地、その暗がりや闇のように輝くところへと。

## ツォファールの弁論 第1回

第11章 「そこで、ナアマの人ツォファールは応答して言っ

た。

- 2 言葉数の多い者は反駁されないのだろうか、口達者が正しいと見なされることもなからうか。
- 3 あなたの無駄話が男どもを沈黙させただろうか、あなたが嘲笑して、反論する者がいないだろうか。
- 4 あなたは言う、「わが説得は清く、私はあなたの目に清廉だ」と。
- 5 だが、神が語ってくれるなら、彼があなたに対して口を開いてくれるなら、
- 6 あなたに隠れた知恵を告げるなら、あなたの賢さは二倍になろう。
- 7 知っておくがよい、神はあなたの咎の一部を忘れて下さる。
- 8 あなたは神の源を見出すことができようか、全能者の極限を見出すことができようか。
- 9 それは天よりも高い。あなたは何ができよう。それは陰府よりも深い。あなたは何を知り得よう。その寸法は大地より長大で、海よりも広大だ。

- 10 もし、彼が掠め取って引き渡し、集会を招集するなら、誰が彼を止められよう。
- 11 まことに、彼が偽る男どもを認知し、不法を見て、それを心に留めないことがあるか。
- 12 浅はかな者にも分別がつくかも、野ろばの子が人間に生まれつくことができるなら。
- 13 もし、あなたがあなたの心を整えて、あなたの両掌を彼に向けて広げ、
- 14 もし、あなたの手に不法があるならば、それを遠ざけよ、あなたの天幕に不義を住まわせなければ、
- 15 そのとき、あなたは落ち度を離れて顔を上げ、あなたは鑄直されて、恐れることはない。
- 16 そうすれば、あなたは災難を忘れ、思い出しても、流れ去る大水のよう。
- 17 人生は真昼に勝るものとなり、たとえ暗くても、朝のようになる。
- 18 あなたは望みがあるゆえ、自信に満ち、念入りに見廻し、安心して伏すだろう。
- 19 あなたが身を横たえても、脅かす者は誰もなく、多くの人が機嫌を取るだろう。

20 だが、邪悪な者たちの目は衰え、  
逃れ場所は彼らから失せ、  
彼らの望みは息絶える。

ヨブの弁論 第3回

第12章 1そこで、ヨブは応答して言った。

- 2 確かにあなたがたは仲間同士で、  
あなたがたと一緒に知恵も死ぬだろう。
- 3 この私にも、あなたがたと同様に心がある。  
私はあなたがたに劣る者ではない。  
このことを弁えない人間がいるのだろうか。
- 4 私は、わが友人たちの笑い種くさまになっ  
ていて、  
神ミヅノに呼ばわって、彼の応答を得ていた人が、  
「完全な義人がね」と、嘲笑の的になっ  
ている。
- 5 高慢な思いには、破滅は軽蔑の的だ、  
「彼らの足がよるめいたのは当然だ」と。
- 6 荒らしまわる者たちの天幕は安寧で、  
神ミヅノを怒らせる者たちは安泰、  
彼らエロフを神が御手で導いているのだ。

- 7 しかし、獣たちに聞いてみよ、  
彼らがあなたに教えてくれるだろう、  
天の鳥たちもあなたに告げるだろう、  
さもなくば、大地に問うてみよ、  
それが教えてくれるだろう、  
海の魚たちも、あなたに語ってくれるだろう。
- 9 これらのどれもが知らないはずはない、  
主ヤハウェの手がこれを成し遂げたということ。  
10 生けるものすべてのいのちは彼の手にある、  
すべて肉なる人の霊も同様に。
- 11 耳は言葉を聞き分けて、  
口は食べ物を楽しむではないか。
- 12 「老いた者には知恵があり、  
長寿の者には英知がある」。
- 13 だが、知恵と威力とは彼と共にあり、  
計らいと英知も彼のもの、
- 14 彼が取り壊すなら、再建できず、  
人を閉じ込めると、釈放されず、  
15 水を閉ざすなら、乾き切り、

水を放てば、大地を覆す。

16 力と成果とは彼と共にあり、

誤る者も誤らせる者も、彼のもの。

17 彼は参議たちを裸足で連行し、

裁き人たちを愚弄し、

18 王たちへの懲らしめを解き、

彼らの腰に布をまとわせ、

19 祭司たちを裸足で連行し、

声望ある者たちを没落させ、

20 信頼されている者たちから言葉を奪い、

長老たちから賢察を取り上げ、

21 高貴な者たちに侮蔑を注ぎ、

権力者たちの帯を解く。

22 彼は暗闇から深部を露わにし、

暗黒を光に向けて引き出す。

23 彼は諸国民を育て上げて、これを滅ぼし、

諸国民を広げてから、これを連れ去り、

24 国の民の長たちから判断力を奪い取り、

彼らを道なき荒野に迷い込ませ、

25 彼らを光なき暗闇の中で手探りさせ、

酔いどれのように、彼らを迷わせる。

### 第13章

1 わが目はすべてを見ており、

わが耳は聞いているので、

私はそのものとして理解している。

2 あなたがたが知るほどのことは、この私も知っており、

私はあなたがたに劣つてはいない。

3 ところで、私が語りたい相手は全能者シヤツグダイなのだ。

私は神エルに向かって論じたいと切望する。

4 あなたがたはと言えば、偽りを塗りたくるだけで、

あなたがたはすべて無用の医者だ。

5 そこで、あなたがたは沈黙を守って欲しい、

それがあなたがたには知恵というものだ。

6 あなたがたに私の論ずるところを聞いてもらいたい。

わが唇の抗弁に耳を傾けて欲しい。

7 あなたがたは神のためにと不義を語り、

彼のために欺瞞をも語るのか。

8 あなたがたは彼に取り入って、

神エルのために弁論するのか。

9 彼があなたがたの内を探ってもよいのか。

あなたがたは人を欺くように、彼をも欺こうというのか。

10 彼はあなたがたを必ず叱責するだろう、  
たとえ密かに彼に取り入るとしても。

11 彼の威厳があなたがたを威嚇するはずだ。

彼の恐れがあなたがたに臨まないですむだろうか。

12 あなたがたの口上は灰の格言で、

その数々の答弁は粘土飾りの盾だ。

13 わが前では黙って欲しい、私は語りた、

わが身に何が起ころうとも。

14 何のために、私はわが肉をわが齒に噛ませ、

わが命をわが手に握るのか。

15 彼が私を殺すようなことがあっても、

私は待ってられない、

彼の面前で、私はわが生き方を申し立てるのみ。

16 まことに、私にとって、彼が救いになる、

不敬な輩が彼の面前に出ることは許されないうえに。

17 わが言うところをよく聞き、

わが宣言に耳を傾けて欲しい。

18 ご覧あれ、私は主張根拠を準備した。

私は、自分が正当であると確信している。

19 一体、誰が私と争うことができるだろうか。

争える者がいるならば、私は沈黙し、息絶えるしかない。

20 私に対して、唯二つのことをしないでほしい、  
それが叶うなら、私が御顔から逃げ隠れはしない。

21 あなたの掌をわが上から離して下さるように、

あなたの恐怖が私を威嚇しないように。

22 お呼び下さい、私は答えます。

さもなければ、こちらから語りますので、ご返答下さい。

23 私の咎と罪はどれほどあるのか、

私の罪過と罪とを私に知らせて下さい。

24 なぜ、あなたは御顔を隠すのか、

私をあなたの敵と見なすのか。

25 あなたは吹き散る木の葉を脅かし、

乾いた藁屑わらくずを追いまわすのか。

26 まことに、あなたは私についての苦にがいことを記録し、

わが若き日の諸々の咎を相続させ、

27 わが両足に枷をはめ、

わが路のすべてを見張り、

28 わが足跡に印を付けておく。

このように扱われる者は、腐りゆく者のように衰え、

衣蛾に食われた衣のようになる。

## 第14章 1女から生まれる人間、

その日々は短くて騒動に満ち、

2 育つては枯れる花のように、

逃げ去る影のようで、留まることがない。

3 一体、あなたは、このような者にも目を見開き、

私をあなたとの裁判に引き出すおつもりか。

4 清いものが穢れたものから生まれればよい。

だが、そんな例は一つもない。

5 まことに、彼の日々の数は決められており、

その月の数はあなたに委ねられている。

あなたは彼が越えることができない境界を設けている。

6 彼から目を離して欲しい、彼が休息できるように、

日雇い人のように、彼が一日を終えて一息つけるまで。

7 まことに、木には望みがある、

伐られても、また芽吹き、

その若枝が尽きることはない。

8 その根が地中で古び、

切り株が塵の中で死んでも、

9 水の湿りをもらって萌え出て、

苗木のように若枝を伸ばす。

10 しかし、人は死ぬと無力になり、

人間は息絶えれば、どこかに消える。

11 水は海から消え去り、

川は干上がって涸れる。

12 人は伏して再び起き上がらず、

天が尽き果てるまで、目を覚まさず、

眠りから覚めることがない。

13 どうか、あなたが私を陰府に隠し、

あなたの怒りが鎮まるまで、私を匿い、

私のために境界を定め、私を思い起こし給え。

14 人は死んで、また生きるだろうか、

わが苦役の日には待ち続けよう、

わが交代の時が来るまで。

15 呼んで下さい、私はあなたに答えよう。

あなたは御手の業に心を焦がす方、

16 あなたは今、私の歩みを数え上げるが、

わが罪を見張らず、

17 わが罪過を袋の中に封じ込め、

わが咎を塗り隠し給う。

18 しかし、山は崩れ衰え、

岩もその場所から移され、

19 水は諸々の石を摩滅させ、

洪水が大地の塵を流し去る。

あなたは人の望みをも、このように滅ぼした。

20 あなたは人を圧倒して永久に去らせ、

人の容貌を変えて追いやる。

21 彼はその子らが榮譽を受けても、知ることがなく、

彼らが落ちぶれても、理解できない。

22 ただ彼は、彼に襲いかかる肉の痛みを覚え、

その魂はおのが身に向かい嘆くばかりだ。

## 第2回対論

エリファズの弁論 第2回

第15章 1そこで、テマンの人エリファズが応答して言った。

2 賢者は風に等しい知識を持ち出すだろうか、

その腹を東風で満たしてもよいのか、

3 彼が無用な議論によって抗争し、

その言葉が何の役に立たなくてもよいだろうか。

4 その上、あなたは畏れを損なっており、

神エルの前での黙想を返上している。

5 まことに、あなたの咎があなたの口に教え込んでおり、

あなたは狡猾な者たちの舌を選択している。

6 あなたに罪ありと宣するのは私ではなく、

あなたの口であり、

あなたの唇が、あなたに不利に証言している。

7 あなたは最初の人間として生まれたのか、

諸々の丘よりも前に産み出されていたのか。

8 あなたは神エロアの評議を傍聴し、

知恵を自分に引き寄せたのか。

9 あなたが知っているのに、

われわれが知らないことがあるか、

あなたが理解しているのに、

われわれが理解していないことがあるか。

10 われわれの中には白髪の者も、古老もおり、

その歳月はあなたの父を凌いでいる。

11 あなたには小さ過ぎるのか、神カミの慰めが、  
あなたを配慮して語られるその言葉が。

12 何が一体あなたの判断力を奪ったのか、  
あなたの目は何に魅せられたのか。

13 どうしてだ、あなたが憤慨の矛を神カミに向け、  
口から雑言ハヤシを迸らせているのは。

14 人は何者なので、清くありえよう、

女から生まれた者がどうして正しいだろうか、

15 彼はその聖なる者たちをも信頼しないし、

彼の目には天も清くないのだから、

16 まして厭いとわれる者、腐敗した者、

不義を水のように飲む者に至っては。

17 私があなたに告げる、耳を傾けよ、

私が示されたことを、私に語らせよ。

18 それは賢者たちが告げてきたことで、

その父祖たちが隠し置かなかった事柄だ。

19 地が与えられるのは、もっぱら彼らに對してであり、

よそ者が彼らの直中を通過することはない。

20 邪悪な者は一生、苦しみもだえ、

乱暴者には年数が保留されているだけだ。

21 その両耳には諸々の恐れオソレの音が鳴り響き、  
平穏な時にも略奪者が彼を襲う。

22 彼は暗闇から逃げ果たせると信ずることができず、  
剣のために目を付けられている。

23 彼はパンを求め、「どこだ」と言いつつさ迷い、  
暗闇の日が目前に迫っているのを知っている。

24 苦痛と悩みが彼を威嚇するが、

そのさまは王が戦に臨むよう。

25 それでも、彼は神カミに敵対してその手を伸べ、

全能者シヤンタイに向かつて益荒男を気どり、

26 その首を固めて彼に馳せかかり、

突起付きの分厚い盾を振りかざす。

27 彼はその顔に脂を塗りたくり、

その腰には脂肪を帯びているが、

28 彼が住むのは滅ぼした町々で、

居住放棄の家々だ。

それらは廢墟となるよう定められている。

29 彼は富を持続できず、権勢は確立せず、

その財を地に行き渡らすことはできず、

30 暗闇を避けることができず、

熱がその若枝を枯らし、

彼の口の息によって消え去る。

31 ぐらついている空っぽに頼るな、

彼の見返りは空に終わる。

32 彼の日は終わってしまふ、繁栄の時が来る前に、

その枝が茂る前に。

33 彼は葡萄の木のように未熟の実を落とし、

オリブの木のようにその花を摘み取る。

34 まことに、不敬な輩の集いは実を結ばず、

火が賄賂の天幕を焼く。

35 彼は災難を孕んで不法を生み、

彼らの腹は策略を育む。

#### ヨブの弁論 第4回

第16章 1 ところで、ヨブは応答して言った。

2 そんなことは嫌というほど聞かされた、

あなたがたは皆、災難をもたらす慰め手だ。

3 その言葉は風で、果てしがないではないか、

何があなたを苛立たせて、そんな応答をするのか。

4 私も、あなたがたのように語ってみたい、

もし、あなたがたと魂の交換ができるならば。

私はあなたがたに対して、言葉を連ね、

あなたがたに対して、わが頭を振り、

5 わが口によってあなたがたを力づけ、

わが唇は同情を呈するであろう。

6 私が語ったところで、わが苦痛は止まず、

私が黙っても、果たしてそれが去るだろうか、

7 今や、それが私を困憊させている。

あなたは私の諸々の交わりを荒涼とさせ、

8 私を捕まえ、その者が証人となった。

わが痩せ衰えた姿が私に敵して立ち、わが顔に向かつて

反駁する。

9 私をかき裂くのは彼の怒りで、彼が私に敵対する。

彼は私に向かつて歯ぎしりし、

わが敵はその目を尖らして、私を睨む。

10 彼らは私に向かつてその口を開け、

侮辱しつゝ、わが頬を打ち、

群れをなして、私に立ち向かう。

11 神は私を悪漢に引き渡し、

邪悪な者たちの手に、私を投げ与える。

12 私は平穩に生きていたが、彼は私を打ち砕き、  
わが首の根を捉えて、幾度も打ちつける。

彼は私を彼の的として置き据え、

13 彼の射手が私を包囲し、

私の腎むらとを無慈悲に切り裂いて、

胆汁を地に流れ出させる。

14 彼はわが上に破れに破れを重ね、

勇士のように、私に向かって馳せかかる。

15 私はわが肌の上に粗布を縫いつけ、

わが角を塵の中に突き入れ、

16 わが顔は泣きはらして赤くなり、

わがまぶたの上を暗黒が覆っている。

17 わが両掌には暴虐がなく、

わが祈りは潔いいさよにもかかわらず。

18 大地よ、わが血を覆い隠すな、

わが叫びに休み所を用意するな。

19 こんな時にも、私の証人が天にいる、

私を確証してくれる者が、高いところにいる、

20 わが仲裁者、わが友が。

わが目は神エロハに向かってじっと見つめる。

21 彼エロハが神に対し、益荒男のために抗弁して欲しい、  
人の子とその友の間に立って。

22 まことに、その日が来るまではわずかで、

すぐに、私は行って帰ることなき路を行くだろう。

第17章 「わが霊は破れ、わが日々は終わり、

墓地だけが私を待っている。

2 嘲る者たちが私を取り囲んでいなければ、

わが目が彼らの辛辣に釘づけされることはないのだ。

3 私を保証する者をあなたの傍らに置きたまえ。

誰が私のために手を打ってくれようか。

4 あなたが彼らの心を閉ざし、賢察を奪ったからには、

彼らを高めなくて欲しい。

5 「彼は仲間に分け前を告げる、

彼の子らの目が衰弱していても」。

6 私は私を民の笑い種くまに据え、

私は顔に唾される者になった。

7 わが目は憤りのゆえに衰え、

わが四肢はすべて影のようだ。

8 正しい人々はこのことに驚き、

無笑の者は不敬な輩に憤慨する。

9 義人はその道を守り、  
手の清い者は力を増し加える。

10 あなたがたは皆、私に向き直り、やって来るがよい、

あなたがたの中に、私は賢者を見つけれない。

11 わが日々は去り、わが諸々の企ては破れ、

わが心の願いの数々も消えた。

12 夜が昼に変わっても、

光は暗闇を目前にしている。

13 私が望むとしても、陰府がわが家で、

暗闇の中にわが寢床を延べるぐらいなもの。

14 もし、私が墓穴を「わが父」と言い、

蛆虫を「わが母、わが姉妹」と呼ぶならば、

15 一体、わが望みはどこにあるのか、

わが望み、それを誰が認めてくれるのか。

16 それらは私と共に陰府に下るのか、

本当にわれわれと一緒に塵に向かつて下るのか。

## ビルダドの弁論 第2回

第18章 「そこで、シユアハの人ビルダドが応答して言った。

2 一つになったら、あなたがたは多弁に終止符を打つのか。

明敏でありたまえ。

3 そうあつてこそ、われわれは語り合える。

4 何の理由があつて、

われわれは家畜同然に見なされるのか、

あなたがたの目には、われわれは愚かであるのか。

5 自分の怒りで自らを引き裂いている者よ、

あなたのせいで地が見棄てられ、

岩がその場所から移されるだろうか。

6 だが、邪悪な者たちの光は消え、

その火の焰は輝かない。

7 彼の天幕では光が闇になり、

その灯火も彼には消える。

8 彼の強力な歩みは妨げられ、

彼の計略で自ら転覆する。

9 まことに、彼は網にかかつてその足を取られ、

仕掛けの上を歩む。

10 網罟が彼の踵をつかまえ、

いくつもの輪罟が彼を締めつける。

10 彼を捕らえる綱が地に隠されており、  
彼の径の上には縄がわたされている。

11 諸々の脅かしが、彼を取り囲んで威嚇し、  
彼の足を追跡する。

12 彼の精力は枯渇し、

災禍が彼の脇に差し迫っている。

13 彼の皮膚のいたるところが蝕まれる。

死の初子が彼の肢体に喰らいつく。

14 彼は頼みである天幕から引き離され、  
人が彼を恐怖の王にまで引つ立てる。

15 彼の一族でない者が、彼の天幕に住み、

彼の住まいには硫黄が撒かれる。

16 下では彼の支根が枯れ、

上では彼の枝々が干涸びる。

17 彼の記憶は地から拭い去られ、

彼の名は巷から消え去る。

18 彼は光から暗闇に投げ込まれ、

世の中から彼は追い立てられる。

19 彼は民の中に子孫も末裔も持つことなく、  
彼が住んでいたところには生き残りがいない。

20 彼の日に、西の人々は驚倒し、

東の人々は驚愕に捉われる。

21 不義の輩の住居がどうなるかは、これこの通り、  
神を知らない者の居所もこのようだ。

## ヨブの弁論 第5回

第19章 「そこで、ヨブは応答して言った。

2 いつまで、あなたがたはわが魂を苦しめるのか、

言葉繁く、私を粉碎しようとするのか。

3 これで十度も、あなたがたは私を侮蔑し、

私に苦痛を与えたが、恥じるところがない。

4 確かにそうだ、私は過失を犯しましたであろう、

しかし、私の過ちは私に仮寓する事柄である。

5 そうだ、もしあなたがたが私に尊大に振る舞い、

私にわが恥を教示するのであれば、

6 しかと知るべきだ、神が私を不当に扱っており、

彼の捕獲網が私を取り囲んでいるということ。

7 私が「暴虐だ」と叫んでも、私には応答がない、

助けを求めても、そもそも公義が存在していない。

8 彼がわが行路を遮ったので、私は通行できず、  
わが徑に暗闇を据える。

9 彼はわが誉れを私から剃ぎ取り、  
わが頭の冠を奪い去った。

10 彼が四方から私を取り壊すので、私は消滅する。  
彼はわが望みを木のように引き抜いた。

11 彼は怒りを私に向かつて燃え上げさせ、  
私を自分の敵の一人のように見なす。

12 彼の軍勢が一団となって私を襲い、  
私に対して彼らの斜道を築き上げ、  
わが天幕の周りに陣を設ける。

13 彼はわが兄弟たちを私から遠ざけた。

わが知己でさえ、私を避けるようになった。  
14 わが親族も、わが知り人たちも離れて行った。

彼らは私を忘れ去ったのだ、

15 わが家に寄寓していた者たちまでも。

私は仕え女たちには他人と見られ、

彼らの目には異人となった。

16 私がわが下僕を呼んでも、彼は返事をせず、  
私がわが口によって彼に憐れみを乞う始末。

17 私の息はわが妻に嫌われ、

わが同腹の者たちにも、私は鼻つまみとなった。

18 小童でさえ、私を見下し、

私が立ち上がると、彼らは雑言を浴びせる。

19 親しかった者は皆、私を嫌悪し、

愛した人々も私に背を向けた。

20 わが骨はわが皮膚とわが肉に張り付き、

私は齒の皮で逃れている。

21 われを憐れめ、われを憐れめ、あなたがた、わが友よ、

神の手が私を撃ったのだから。

22 なにゆえ、あなたがたは神のように私を追うのか、

わが肉で飽き足らないのか。

23 私の言葉の数々が記されればよいのだが、

もし碑に刻み込まれるならば、

24 鉄の筆と鉛とをもって、

永久に岩に彫り込まれるならば。

25 だが、私は知っている、私を贖う者は生きたもう、

しかも最後の者が塵の上に立つのだと。

26 わが皮膚がかく引き剥がされた後に、

わが肉を離れて、私は神エロハを見るであろう。

27 私は彼をわが味方として見るであろう、

わが眼は他人ではない者として、彼を認めるであろう。

わが腎しよとはわが内で慕い焦がれる。

28 もし、あなたがたが「どのように彼を追及しようか、

事の根源は彼の内に見つけられる」と言うなら、

29 恐れよ、あなたがたの目の前にある剣を。

それは剣に値する答なのだ。

あなたがたは破壊されると知るがよい。

## ツォファルの弁論 第2回

第20章 「そこで、ナアマの人ツォファルは応答して言った。

2 やはり胸騒ぎが私を立ち戻らせるのだ、

わが内に焦燥を覚えるがゆえに。

3 私は私を侮蔑するお説教を聞くので、

わが分別が発する霊が私に応答させる。

4 あなたも知っているではないか、これは昔からのこと、  
彼が地上に人間を置いて以来、こうなのだということを。

5 まことに邪悪な者たちの歓喜は続かず、  
不敬な輩の喜びはほんの一瞬に過ぎない。

6 彼がその高ぶりを天にまで上らせ、

その頭を雲にまで届かせても、

7 彼は自分の糞のように永遠に滅び、

彼を見た者たちは「一体どこに行った」と言うだろう。

8 彼は夢のように飛び去って見出されることなく、

夜の幻のようにかき消える。

9 彼を認めたことのある目が再び彼を認めることはなく、  
彼がいた所はもはや彼に気づくことがない。

10 彼の子らは貧乏人たちを宥め、

彼の手はその富を返上する。

11 彼の骨は若さに漲っていたが、

彼と共に塵に伏すだろう。

12 たとえ悪が彼の口に甘くなり、

彼がそれを舌の陰に隠し、

13 彼が惜しんでこれを棄てず、

口蓋の中に残しておいても、

14 彼が食べたものは腹の中で変化し、

体内に蝮の毒が満ちる。

15 彼は呑み込んだ富を吐き出すことになり、  
神が彼の腹からこれを追い出す。

16 彼は蝮の毒を吸い、

毒蛇の舌が彼を殺す。

17 彼が川の枝分かれを目に収めることなかれ、

また蜜と凝乳の流れをも。

18 彼は苦勞の財を差し戻して呑み込めず、

取引した富のようにには享受できない。

19 まことに、彼は無力な人々を潰して見棄て、

彼が建てたのではない家を奪い、

20 その腹の中で安らぐことを知らず、

その貪欲を逃れるものは何もなく、

21 彼の餌食にならずにすむ者は一人もいないので、

彼の財が永続することはなく、

22 その豊かさが満ちた時、困窮が彼に臨み、

災難が総力を挙げて彼を襲う。

23 彼の腹を満たしたければ、そうするがよい。

彼が燃える怒りを彼に送り、

彼らの上に彼の敵意を降らせよ。

24 彼が鉄の武器を逃れても、

青銅の弓が彼を貫通し、

25 彼が引き抜くと、それは彼の背を刺し通し、

きらめく刃が胆嚢を貫き、

恐怖が彼に襲いかかり、

26 蓄えられていた暗闇のすべてが彼の貯えに向かい、

吹き起こされない火が彼を喰い尽くし、

彼の天幕の残りの者にも災いが下り、

27 天は彼の咎を暴き出し、

地は彼に向かつて蜂起し、

28 大水が彼の家に逆巻き、

彼の怒りの日には怒濤を寄せる。

29 これが邪悪な人間が神から受ける割り当て、

神から予告された彼の相続分だ。

## ヨブの弁論 第6回

第21章 「そこで、ヨブは応答して言った。

2 ぜひと、私の言葉に耳を傾けてもらいたい。

それがあなたがたの気休めになればよい。

3 お許しあれ、まず私が語りたい、

あなたが嘲るのは、私の言葉の後にしてもらいたい。

4 私の嘆きは人間相手のものだろうか、

どうしてわが息が激してはいけないのだろうか。

5 私に顔を向けて驚き、

手を口に当ててるがよい。

6 しかし私は、これに思いを馳せる度に恐怖を覚え、

わが身体がわななきに捉われる。

7 なにゆえ、邪悪な者たちが生きながらえ、

老年に達し、しかもその富が増すのか。

8 彼らは子どもたちの確かな生活を目の当たりにし、

その子孫の群れをも目に収めている。

9 彼らの家産は安全で恐れがなく、

神エロフの杖が彼らに臨むことはない。

10 彼の雄牛の種付けが無駄に終わることなく、

その雌牛の出産が失敗することもない。

11 彼らは童たちを羊の群れのように走らせ、

その子らは飛び跳ねる。

12 彼らは鼓と豎琴に合わせて声を張り上げ、

笛の音に歓喜する。

13 彼らは一生を幸福のうちに過ごし、

陰府には一瞬に下る。

14 彼らは神エロフに言う、「われわれから離れてくれ、

あなたの道の知識が気に入らない、

15 全能者シヤツグダイが何者だというので、

われわれが彼に仕えねばならないのか、

またわれわれが彼に懇願したところで、

何の役に立つのか」と。

16 この通り、彼らの幸福は彼らの手中にある。

邪悪な者たちの謀はかりごとは、私には無縁だ。

17 一体、何度あつただろうか、

彼が邪悪な者たちの灯火を消し、

彼らの上に災禍が臨み、

彼が怒って彼らに滅亡を割り当てたということが。

18 彼らが風に吹き飛ばされる藁となり、

暴風に吹きさらされる粉殻ちみぢらのようになればよい。

19 神エロフが、彼の子らのために彼の富を取り置きし、

彼らに報復することを思い知るがよい。

20 彼の目が滅びを認識し、

全能者シヤツグダイの憤りを飲めばよい。

21 彼は彼が遺す家に何か望むものがあるのか、  
彼が生きる日数が打ち止めとなった後では。

22 一体、神エルに知識を教えることのできる者がいるのか、  
彼は高みにいる者たちをも裁く方ではないか。

23 ある者は満ち足りた最中に死ぬ、  
平穏で、安らかに生を終える。

24 彼のオリーブの実は乳で満ち、  
その骨の髄は潤っている。

25 しかし、ある者は苦しむ魂を抱きつつ、  
幸福を味わうことなしに死ぬ。

26 そうであるのに、彼らは等しく塵に伏し、  
蛆が彼らを覆う。

27 私はあなたがたの諸々の計画を知っている、  
私をねじ伏せようとする企みを。

28 まことに、あなたがたは言う、「高貴な人の家はどこか、  
天幕はどこか、

邪悪な者たちの住まいだったところは」と。

29 あなたがたは道行く人々に尋ねなかったのか、  
あなたがたは彼らの証しを見落としてはいないのか。

30 まことに、邪悪な者が災禍の日を免れ、  
憤怒の日にも彼は導き出されるではないか。

31 彼に面と向かってその道を教示できる者がいるか、  
彼の行ったことを繕う者がいるか。

32 彼は墓地に運ばれ、  
彼の塚には見張りが立つ。

33 彼には谷間の土くれも心地よく、  
人々はこぞって彼の後ろを進み、

彼の前には無数の人が行く。  
34 どうして、あなたがたは空しく私を慰めるのか、

あなたがたの答弁は偽りのままだ。

### 第3回対論

エリファズの弁論 第3回

第22章 「そこで、テマンの人エリファズは応答して言っ  
た。

2 一体、人が神エルを益することがあり得ようか。

賢明な者も自分自身を益するだけではないか。

3 あなたが正しいとしても、

それが全能者シヤツグダイを喜ばせるだろうか、

あなたがその歩みを全きものにしても、

それで得するだろうか。

4 彼はあなたの畏れのゆえに、あなたを訓戒するだろうか、

彼はあなたと共に裁判に臨むだろうか。

5 あなたの悪は多大で、

あなたの咎は際限ないではないか。

6 まことに、あなたは同胞から不当に質物を取り、

裸の者たちに衣を脱がせ、

7 衰弱した者に水を飲ませず、

飢えた者にパンを与えることを拒んだ。

8 (土地は腕力の強い者が独り占め、  
そこに住むのはお気に入りだ。)

9 あなたは寡婦たちに何も与えずに追い出し、

孤児たちの腕が打ち砕かれるようにする。

10 それゆえに、諸々の網罟があなたを取り囲み、

恐れが突然あなたを戦慄させる。

11 あるいは暗闇となって、あなたは見えなくなり、

洪水があなたを覆い尽くす。

12 神エロアハは天の高みに在すではないか、  
見よ、星々の頂がいかにか高いかを。

13 しかし、あなたは言う、「神エロが何を知っているのか、

彼は暗雲の向こうから裁くであろうか、

14 雲が重なり彼を覆って視界が効かず、

彼は天の境を周回しているだけではないか」と。

15 あなたは昔からの路を守ろうとするのか、

不義の輩やくわいが踏んで来たその道を。

16 彼らは時至らぬ前に取り去られ、

彼らの基は奔流に押し流される。

17 彼らは神エルに向かつて言う、「われわれから離れてくれ、

全能者シヤツグダイが人間たちに何ができようか」と。

18 彼は、彼らの家を良い物で満たすが、

19 邪悪な者たちの謀は、私には無縁だ。

20 義人たちは見て歓喜し、

無実の者は彼らを嘲笑して言う、

21 「決まっている、われわれの敵対者は滅ぼされ、

彼らの残りの者は、火が喰い尽くすのだ」と。

21 あなたは是非、彼と協調して平安を得よ、

それで、あなたの所得はすばらしいものになる。

22 彼の口から教示を仰げ、

彼が語ることを心に留めよ。

23 あなたが全能者<sup>シャッダイ</sup>に向き直るなら、あなたは再建される、

あなたの天幕から不義を遠ざけよ。

24 あなたの金を塵の上に置き、

川床の岩にオフイルを。

25 そうすれば全能者<sup>シャッダイ</sup>があなたの金となり、

あなたには山なす銀となる。

26 まことにその時には、あなたは全能者<sup>シャッダイ</sup>を喜び、

神<sup>エロアハ</sup>に向けて顔を挙げるこゝができる。

27 あなたが彼に懇願すれば、彼はあなたに耳を傾け、

あなたは諸々の誓願を果たすことができる。

28 あなたは事を決めて、それを実現でき、

あなたの道の上には光が輝く。

29 彼らが落ち込めば、あなたは「誇りを！」と言う。

彼が伏し目の者を救うだろう。

30 誰でも無実な人は救い出され、

あなたの掌の清さによって救われる。

## ヨブの弁論 第7回

第23章 「そこで、ヨブは応答して言った。

2 今日もまた、わが嘆きは苦々しく、

わが呻きのゆえに、わが手は重い。

3 どうしても知りたい、私がどこで彼に会えるかを、

彼が在すところにまで、私は行きたい、

4 私は彼の前に訴えを並べ、

わが唇を諸々の抗弁をもつて満たしたい。

5 私は、彼が私に応答する諸々の言葉を知り、

彼が私に語ろうとするこの何かを理解したい。

6 彼は強大な力を持つので、

私とまともに論争するだろうか。

それはなくても、私に気づくだけはして欲しい。

7 そのところで、一人のまっすぐな者が彼に応酬できれば、

私は、私を裁く者によって永久に解放されたいのだ。

8 たとえ、私が東に行っても、彼はいない。

西に行っても、彼を認知できない。

9 北では、彼は身を隠しており、彼を見ることができない、

私が南に転じても、彼とは出会えない。

10 しかし、彼は私と共にある道を弁えている。

彼が私を検査する時、私は金のように身を現すであろう。

11 わが足は彼の歩みを追跡し、

彼の道を守って逸れることがない。

12 私が彼の唇の戒めを踏み外すことはなく、

私は彼の唇の言葉をわが規律よりも大事に守る。

13 しかし彼は唯一者であつて、誰も彼に翻意を促せない。

彼は、おのが欲するままに行う。

14 まことに、彼はわが定めを完成させ、

それに類した多くの事柄が、彼の意のままである。

15 それゆえ、私は彼を前にして恐怖を覚え、

私が恐れるのは彼のためだと、つくづく考える。

16 私は私の心を怖じけさせ、

全能者は私を怯えさせる。

17 しかし、暗闇を前にして、私は決して沈黙しない、

闇の覆いを目前にしても。

第24章 1 なぜなのか、全能者には諸々の時が隠されてい

ないのに、

彼を知る者たちが彼の日々を目撃できないのは。

2 ある者たちは地境を動かし、

家畜の群れを奪い、それを飼っている。

3 彼らは孤児のろばを駆り立て、

寡婦の雄牛を質に取る。

4 彼らは貧しい者たちを、暮らしの道から押しつける。

この地の困窮した人々は身を寄せ合つて隠れている。

5 見よ、彼らは荒野の野ろばだ、

仕事のためには、どこにでも出て行く。

彼らは餌を探しまわる者たちで、

その子どもたちのパンのためには荒地地にも向かう。

6 彼らは野で餌を集め、

邪悪な葡萄畑で採り入れをする。

7 裸なのだ、彼らは着る物がないまま夜を過ごす、

寒さを防ぐ覆いを持たず、

8 山地の雨にずぶ濡れで、

避難するところがないので、岩にしがみつく。

9 (彼らは母の胸から孤児を奪い、

困窮した人の乳飲み子を質に取る。)

10 裸で歩くのだ、彼らは着る物がないまま、

麦束を運んでも、飢えており、

11 石垣の間でオリーブ油を搾り出し、

葡萄酒を踏んでも、渴いている。

12 町からは男どもが呻き声を挙げ、

刺し貫かれた者たちの喉が助けを叫んでいる。

しかし、神はエロフハおかしなこととは認めない。

13 彼らこそは光に背く輩だ。

彼らは光の道を承認できないし、

その通路に留まるつもりもない。

14 人を殺める者は光に向かって起き出し、

困窮した人と貧しい人を殺し、

夜には盗人のようになる。

15 姦淫する者の目は黄昏を待ち、

誰も私だと気づいていないと思っても、

顔に覆いを着ける。

16 彼は暗闇の中で家々を穿ち、

昼には彼らは閉じ籠もっており、

光を知らない。

17 まことに、彼らには、朝は暗黒に等しい。

各自が暗黒の脅かしを承認しているからだ。

18 彼は水面を速やかに過ぎる者、

彼らの割り当てはこの地で呪われ、

彼は数々の葡萄酒の道には帰れない。

19 乾燥と暑さは雪解け水を奪い去るが、

陰府は罪を犯す者たちをもそのようにする。

20 胎も彼を忘れ、

蛆虫どもが喜んで喰らいつき、

もはや、彼は思い起こされることはない。

不義は木のように折り砕かれる。

21 彼は不妊の女を喰い物にし、

寡婦から幸せを取り上げ、

22 力ある者たちを引きずり出し、

身を立て、所与の生には頼らず、

23 自ら安全と支えを確保し、

彼の眼を彼らの道に注ぐ。

24 彼らが自らを高めても、すぐいなくなり、

彼らは低くされ、みな一緒に括られて、

穂先のように萎びてしまう。

25 もし、この通りでないなら、今、誰でも私を偽り者とし、

私の言葉を空疎だと決めつけるがよい。

ビルダドの弁論 第3回

第25章 1そこでシユアハの人ビルダドが応答して言った。

2 支配と恐れは彼の許にあり、

彼はその高き所で平和を達成する。

3 誰が彼の軍勢を数えられるか、

彼の昇る光に照らされない者がいるか。

第26章 5 亡者たちはのたうつ、

彼らは水の下なる者、そこに住む者たちは。

6 彼の面前では陰府も裸で、

奈落の底も覆い隠す物がない。

7 彼は北（の山々）を空虚の上に張り、

地を何もないとこに架ける。

8 彼が黒雲の中に水を包み込んで、

群雲むらぐもの底は破れない。

9 彼は玉座の面を隠し、

その上にその群雲を広げ、

10 水の面に境界の円を描き、

暗闇に対する光の領域を定める。

11 天を支える諸々の柱は揺れ動き、

彼の叱責のゆえに震える。

12 彼はその力によって、かの海を鎮め、

その英知をもってラハブを撃ち、

13 彼の息によって天は清澄、

その手は逃げる蛇を刺し貫く。

14 これらは彼の道の端々に過ぎず、

われわれは彼の言葉の囁きを聞くのみ。

誰が彼の轟きわたる威力を明察できよう。

第25章 4エル神の面前で、

人はどうして正しくありうるだろう、

女から生まれた者がどうして清かるう。

5 月でさえ、輝きを失い、

星々も彼の目には清くないのだから、

6 まして人は蛆虫で、

人間の子は虫けらだ。

ヨブの弁論 第8回

第26章 1そこで、ヨブは応答して言った。

2 どんなに、あなたは力のない者を助け、  
無力な腕を救ってきたことだろう、

3 どれほど、知恵もなしに助言し、  
実りを大きくする策を授けたことだろう、

4 誰に支えられて、あなたは言葉を出し、  
誰の息吹きが、あなたから発したのだろう。

第27章 1そこで、ヨブはその弁を続けて言った。

2 わが正当な論拠を退ける神が生きる限り、  
わが魂を苦しめる全能者にかけて、

3 わが内に一息たりとも残る限り、  
神の霊がわが鼻に留まる限り、

4 わが唇は断じて不義を語らず、  
わが舌は偽りを囁かない。

5 私は決してあなたがたを正しいとは認めない、  
わが息の絶えるまで、私は自己の高潔を主張する。

6 私はわが義を固持し、取り下げることなく、  
わが良心がわが日々の内に落ち度を認めることはない。

7 わが敵は邪悪な者のようになれ、  
私に立ち向かう者は不義の輩のようになれ。

8 一体、不敬な輩が息絶える時に、何の希望があるか、  
神が彼のいのちを運び去る時に。

9 神は彼の叫びを聞くだろうか、  
苦難が彼の上に下る時に。

10 彼が全能者を喜びとすることがあろうか、  
いつでも神に叫び求めることができようか。

11 私はあなたがたに神の手によって教え、  
また全能者の意図するところを隠したりはしない。

12 あなたがたは皆、目撃したはずだ、  
それなのにどうして空疎な言葉を吐き続けるのか。

13 これが、邪悪な人間たちの神からの割り当てだ、  
乱暴者たちが全能者から受ける相続分だ。

14 彼の子らが増しても、彼らには剣が待ち受けており、  
その子孫がパンを食べ飽きることはない。

15 彼の生き残りたちが死に捕らわれ、葬られても、  
彼の寡婦たちは泣くこともできない。

16 たとえ、彼が銀を塵のように積み上げ、  
衣装を泥のように貯えても、

17 取って置きを着るのは義人で、

銀を分配するのは無実の者である。

18 彼は衣蛾のようにその家を建てるが、

見張りが造る掘立小屋のようだ。

19 彼が富んだ者になって寝ても、収穫できなくなり、

その目を見開いても、何一つない。

20 恐怖が大水のように彼を捉え、

夜は暴風が彼を吹きさらう。

21 東風が彼を持ち上げて連れ去り、

彼を居場所から吹き払い、

22 無慈悲に彼を投げ捨てる、

彼がその手から何とか逃れようとしても、

23 人は彼に対して手を叩き、

彼がいた所から彼に向かって口笛を吹く。

## 知恵の所在を問う歌

第28章 1まことに、銀には産出する所があり、

金には精錬する場所がある。

2 鉄は塵から取り出され、

岩石が溶かされて銅が出来る。

3 人は暗闇の極限に身を置き、

境界を隅々まで探求して、

闇と暗黒の石に及ぶ。

4 さすらい人からも遠くで、人は縦穴を穿つ。

彼らは人跡から見放された者たちで、

人々から隔絶し、垂れ下がって揺れ動く。

5 食物を出すのが大地だが、

その下方は掘り返されて火のようだ。

6 その岩山はラピスラズリが採れる所、

金を含む塵の凝集もそこにある。

7 踏み入る径は猛鳥も知らず、

鷹の目も認めることができず、

8 そこを誇り高き獣たちも踏むことなく、

その上を猛き獅子が通ることもない。

9 人は硬い岩に手を伸べて、

山々を根元から掘り返し、

10 岩々に幾つもの坑道を開削し、

彼の眼にあらゆる高貴なものを見つけ出す。

11 彼は水流の源を塞ぎ、

その隠されたものに光を当てる。

12 しかし、知恵はどこに見出されるのか、  
分別の場所はどこにあるのか。

13 人はそれが備わるところを知らない、  
生ける者たちの地には見当たらない。

14 深淵は言う、「それは私の中にはない」、  
海も言う、「それは私の許にはない」と。

15 純金がそれに見合うものとして与えられることなく、  
銀がその値として量られることもない。

16 オフィルの黄金も支払いには足りず、  
高貴な紅玉髓もラピスラズリによつても不足する。

17 金も玻璃もそれに対抗できず、  
純金の器もそれとの交換はできない。

18 真珠や水晶は言うに及ばず、  
知恵の価値は珊瑚をも凌ぐ。

19 クシユの黄玉も、それに対抗できず、  
混じりなき黄金も支払いに足りない。

20 しかし、知恵はどこに由来するのか、  
分別の場所はどこにあるのか。

21 それは生ける者すべての目には隠され、

空の大鳥にも隠れている。

22 奈落の底も死も言う、

「われわれはそれを耳で伝え聞いただけだ」と。

23 神エロヒムはその道を熟知しており、

彼こそがその在り場所を知っている。

24 まことに、彼こそが地を極みまで見据えて、  
天の下にあるものすべてを見通す。

25 彼が風に重さを与え、

水を秤で量り、

26 雨には法のりを設け、

稲妻に道を与え、

27 なし終えてから、それを見て数え上げ、  
それを確立し、究め尽くした。

28 そこで、彼は人に言った、

「見よ、主アドナイを畏れること、それが知恵であり、  
悪から遠ざかること、それが分別である」。

## ヨブの独白 第2回

### 過去の榮譽

第29章 「そこで、ヨブはその弁を振るい続けて言った。

- 2 ああ、できないものか、昔の月々にいるように、  
神が私を見守ってくれた日々にいるように。
- 3 あの時には、彼の灯火が私の頭上に輝き、  
私は彼の光によって暗闇を歩んでいた。
- 4 わが人生の盛りの時のようであったなら、  
あの時には、神の親しみが私の天幕を覆っていた。
- 5 あの時には、まだ全能者が私と共にあり、  
私の若者たちも私の周りにいた。
- 6 あの時には、私の歩みは凝乳に洗われ、  
岩も油の流れを私の許に注ぎ出していた。
- 7 私が町の門に出て、  
広場に私の座を設ける時、
- 8 若者たちは私を見て身を隠し、  
老いた者たちは起立して立ち続け、
- 9 君侯たちは語るのを止め、  
その掌で口を押さえ、  
10 君主たちの声は静まり、  
彼らの舌は上顎にくっついた。
- 11 まことに、耳は聞いて、私に祝福を送り、  
目は目撃して、私について証言した。
- 12 それは、私が助けを叫び求める困窮した人を救い、  
保護者のいない孤児を救助したからである。
- 13 滅びに瀕している者の祝福が、私に届き、  
私は寡婦の心を喜びで踊らせた。
- 14 私は正義をまとったが、正義も私をまとい、  
わが公正が私の衣ともターバンともなった。
- 15 私は目が見えない者の目であり、  
歩けない人の足であった。
- 16 私は貧しい人々の父であり、  
よそ者の訴えにも力を尽くした。
- 17 私は不義の輩の顎を砕き、  
その歯牙から獲物を放させた。
- 18 私は思っていた、  
「私はわが家族に囲まれて息絶えるだろう、

わが日数を砂のように多くしよう、

19 わが根は水に向かつて延び広がり、

露はわが枝々に宿り、

20 わが誉れは私に伴いつつ更新され、

わが弓はわが手にあつて新調される」と。

21 人々は私に耳を傾けて待ち望み、

黙つて私の助言に向き合つた。

22 私が語つた後に聞き返す者はなく、

私の言葉は彼らの上に滴り落ちた。

23 人々は雨を待つように、私を望み、

後の雨を待つように、彼らは口を開いた。

24 私が彼らに微笑むと、彼らはとても信じられず、

彼らが私の顔の光を眨めることはなかった。

25 私は彼らの道を選び、首席を占め、

居場所を定めていたが、それは陣中の王のよう、

悲嘆する者たちを励ます者のようであつた。

### 現在の悲慘

第30章 「しかし今は、私を嘲笑うのだ、

私より年若い者たちが。

彼らの父たちは私の蔑むところで、

わが家畜の群れの番犬たちとすら

一緒にしなかつた者たちだ。

2 彼らの手の力が私に何の役に立つたと言ふのだ、

彼らには活力が消え失せていた。

3 彼らは欠乏と飢えによつて生殖の力を失い、

乾いた地を噛んでいたのだ、

昨日は、殺伐とした荒野で。

4 彼らは灌木の中の塩草を引き抜き、

レダマの根を食物としていた。

5 人々は彼らを界限から追い払い、

彼らに盗人呼ばわりの罵声を浴びせる。

6 彼らは谷の狭間に、

塵と岩の洞に居つき、

7 灌木の間で唸り、

刺草いらくさの下で身を寄せ合つていた。

8 彼らはろくでなしで、素性の怪しい者、

里から叩き出された者たちだ。

9 しかし今は、この私が彼らの嘲笑歌に、

彼らの笑い種くそになつてゐる。

10 彼らは私を嫌悪して、私を遠ざけ、

私の顔に唾することを控えない。

11 彼が私の綱を解き、私を苦しめたので、

彼らは、わが顔の前で端綱はづなを投げ棄てたのだ。

12 右手に青二才どもが立ち上がり、

彼らはわが足を宙に舞わせ、

私に向かって、彼らの災禍の路を築く。

13 彼らは私が通る道を粉碎し、

わが滅亡に向けて拍車を掛ける、

助力者に頼らずにだ。

14 彼らは広い破れ口のように襲来し、

瓦礫の間に殺到する。

15 諸々の脅かしが私を攪乱かくらんし、

わが尊嚴は風のように吹き飛び、

わが威信は雲のように流れ去った。

16 しかし今は、わが魂がわが身に注ぎ出され、

わが苦悩の日々が私を捕らえている。

17 夜には彼が、私にのし掛かってわが骨々を穿つので、

私を噛む痛みは一時の休みもない。

18 彼は偉大な能力で、私の衣に姿を変え、

わが上着の襟のように、私を捕まえ、

19 私を泥の中に投げ込む。

私はまるで塵灰同然になる。

20 私があなたに向かって助けを叫んでも、

あなたは応答せず、

立ち尽くしても、あなたは私を見つめるだけだ。

21 あなたは変わって、私に対して凶暴になり、

あなたの手は強力に、私に敵対する。

22 あなたは私を持ち上げて風の上に乗せ、

雷鳴で私を失神させる。

23 まことに、私は知っている、あなたが私を死に至らせ、

生ける者すべてが向かう集いの家に

帰そうとしているのを。

24 確かに、人は廢墟には手を上げないだろう、

彼が災禍の中で、人々に救いを叫ぶ時には。

25 人々の苦難の日に、私が泣かなかったことがあるうか、

わが魂は貧しい人のために悲嘆にくれたのだ。

26 まことに、私は幸せを望んでいたのに、災いが来た、

切に光を待っていたのに、闇が来た。

27 わがはらわたは煮えくり返って鎮まらず、

わが苦悩の日々に、私は直面した。

28 私は陽光を受けることなく、暗い面持ちで歩き、

集会で立ち上がって助けを叫び求める。

29 私はジャツカルの兄弟となり、

駝鳥の仲間になった。

30 わが皮膚は黒ずんでわが身から剝がれ、

わが骨は暑さに焼かれ、

31 わが豎琴は悲しみの調べに、

わが笛は泣く者たちの声となった。

### 潔白の誓い

**第31章** 1 私は自分の目と契約を結んだ、

2 どうして乙女を物色することができよう。

3 そんなことをすれば、

上なる神エロフハからの割り当てはどうなるのか、

4 高きに在す全能者シヤツツグイからの相統分はどうなるのか。

5 不義の輩には災禍が下り、

6 不法を行う者には災厄が臨まないだろうか。

7 彼こそが、私の諸々の道に目を注いでおり、

8 わが歩みのすべてを数えていないだろうか。

9 もし、私が虚偽に歩調を合わせ、

わが足が策略に向かつて

急ぐことがあったとしたなら、――

10 私は彼に公正な秤で量ってもらいたい、

11 神エロフハに、私の高潔なことを知って欲しい。

12 もし、わが歩みが道を外すようなことがあったなら、

私の心がわが目に追隨するようなことがあったなら、

わが掌に染みが付着していたならば、

13 私が蒔いたのに、他人が食べ、

14 私が産出したものが根こそぎになってもかまわない。

15 もし、私の心が人妻に対してうっとりとなり、

わが友の戸口の傍らで待ち伏せしたことがあるなら、

16 私の妻が他人のために白を挽き、

17 他の人々が彼女の上にかがんでもかまわない。

18 11まことに、これは醜行で、

19 裁判人たちに委ねられる咎である。

20 12まことに、それは奈落の底までなめ尽くす火であり、

21 私の収穫を根こそぎにしないではおかない。

彼らを温めなかつたとすれば、――

13 もし、私がわが下僕と仕え女の言い分を、

彼らが私との争いを起こした時に

退けたことがあつたなら、

14 神<sup>エル</sup>が立ち上がる時に、私は何ができよう、

彼が検査する時に、私は何と返答できよう。

15 私を胎に造つた方は、彼をも造つた方ではないか、

われわれを腹の中で固めたのは、同じ方ではないか。

16 もし、私が無力な人を喜ばすことに吝<sup>やぶそ</sup>かであり、

私が寡婦の目を衰弱させたことがあるなら、

17 また、私がパンの一片をも独り占めにして食べ、

孤児がそれを食べることがなかつたなら、――

18 まことに彼は、わが若き日より

(私を) 父と見なして成育したのだ、

私はわが母の胎を離れて以来、彼女を導いたのだ。

19 もし、私が着る物がなくて死にそうな人を見、

貧しい人が身を被うものがないのを認めた時、

20 彼の腰が私を祝福することがなかつたなら、

わが羊による毛織物で、

21 もし、私が孤児にわが手を振り上げたことがあつたなら、

私の援護者が門にいるのを見てそうしたとすれば、

22 私の肩の骨が、その付け根から離れ落ち、

腕の骨が、わが腕で折り砕かれてもかまわない。

23 まことに、私に臨む恐れは神<sup>エル</sup>からの災禍であり、

私は彼の威厳に庄倒されるほかはない。

24 もし、私が金をわが望みと定め、

純金をわが頼みと考えたことがあつたなら、――

25 もし、私がわが富の多さのゆえに、

わが手が力の掌握を見出して歓喜したなら、――

26 もし、私が太陽の輝くの見、

また、月が輝きを増していくのを眺め、

27 私の心が密かにうっとりして、

手を口に付けたことがあつたなら、――

28 これもまた、裁判人に委ねられる咎である、

私が上なる神<sup>エル</sup>を裏切つたのだから。

29 もし、私がわが敵の不運を喜び、

彼が災いに遭つたために欣喜したなら、――

30 私は、わが口が罪を犯すのを決して許さず、

呪いによって、彼のいのちを求めたことはない。

31 もし、わが天幕の人々がこう言わなかつたなら、

「彼の肉に飽き足りない者がいるなど、

ありえない」と、――

32 寄留者が戸外で夜を過ごしたことはなく、

わが戸口は旅する人に開かれていたのだ。

33 もし、私が人々のようにわが罪過を隠し、

わが胸の内に私の咎を

―― しまい込んだことがあつたなら、――

34 私が群がる大衆を恐れ、

一族すべての軽蔑に身震いし、

戸口に出て行かずに沈黙したことがあつたなら、――

35 私に聞いてくれる者がいれば良いのだが、

ここに私の署名がある、全能者は私に答えよ。

わが論敵たる者の書いた書状があれば、

36 私は必ずこれをわが肩に掛け、

わが頭に冠としてこれを被り、

37 わが歩みの数を、彼に告げ、

君たる者のように、彼に近づくであろう。

38 もし、わが畑が私を訴えて叫び、

その畝が共に泣き声を挙げたことがあつたなら、

39 もし、その産物を対価の支払いなしに食べ、

その所有者たちの息を切らせるようなことがあつたなら、

40 小麦の代わりに茨が生え、

大麦の代わりに毒麦が生えてもかまわない。

ヨブの言葉は完結した。

## エリフの弁論

### エリフの登場

第32章 「これら三人の人々は、ヨブに対する応答を止めてしまった。彼が「自分は義人である」との思い込みを貫くからである。<sup>2</sup>そこで、エリフの怒りが燃え上がった。彼はラム族、ブズの人で、バラクエルの子である。彼はヨ

ブが自分の正しさを神エロヒムに優先させたので、ヨブに対して彼の怒りが燃え上がった。3彼の三人の友人に対しても、彼の怒りが燃え上がった。彼らがヨブに非があると示せる答えを見つけられなかったからである。4しかしエリフは、ヨブに対する反論の時を待っていた。彼らが彼よりも年長で歳月を重ねていたからである。5エリフは三人の人々には口にすべき答えがないのを知って、彼の怒りが燃え上がった。

## エリフの弁論 第1回

6そこで、ブズの人、バラクエルの子であるエリフは

応答して言った。

私は歳月において劣る者、

他方、あなたがたは老いた方々だ。

そこで、私は遠慮し、憚っていた、

私の見解をあなたがたに公にするのはどうか、と。

7私は思っていた、年功が語るだろう、

歳月の積み重ねが知恵を告知できるはずだ、と。

8ところが、人の中の霊が、

全能者シェツァッガイの息が、人々に理解をもたらずのだ。

9年長者が賢いわけではなく、

歳を重ねた者が公正を理解しているとは限らない。

10それゆえ、私が語ろう、私に耳を傾けよ。

私もまた、自分の見解を公にしたい。

11まことに、私はあなたがたの反論を待ち、

あなたがたの英知に耳をそばだてた。

あなたがたが言葉を探す間は、

12私は、あなたがたを理解しようと努めた。

ところがご覧の通り、ヨブに訓戒する者がいない、

あなたがたの内には、彼の言葉に言い返せる者がいない。

13もしや、あなたがたが「われわれは知恵を見出した、

彼を論破するのは神エルであって、人ではない」と

言い逃れるのでは。

14彼は私と争う言葉を展開したことはないので、

私はあなたがたの論法によらずに、彼に言い返そう。

15彼らは怖じけて、それ以上の応答ができなくなり、

言い返す言葉が彼らから去ったのだ。

16私はまだ待つべきだろうか、彼らは言葉に詰まり、

突っ立ったまままで、もう何も応答できないのだ。

17そこで、この私が応答して、私の役目を果たそう、

この私が、わが見解を公にしよう。

18 まことに、私は言葉に溢れている、

わが腹に満ちる霊が、私を圧迫するのだ。

19 この通り、わが腹はさながら未開封の葡萄酒で、  
新しい革袋のように破裂寸前だ。

20 私が語ることで、わが気分をすっきりさせたい。

私はわが唇を開いて、応答する。

21 私は誰かに取り入るようなことはしない、  
人に媚びるようなこともしない。

22 そもそも、私は媚びる術を知らない。

そんなことをすれば、わが造り主が速やかに  
私を取り去るだろう。

**第33章** 1そこでヨブよ、私の弁論を聞き、

私のすべての言葉に耳を傾けよ。

2 この通り、私は口を開いた、

わが舌が口蓋の中で語り出す。

3 わが弁舌は、わがまっすぐな心に発し、

わが唇が知るところを濁りなく語る。

4 神の霊が私を造り、

全能者の息が私を生かす。

5 もし、あなたができるなら、返答せよ、

あなたは論陣を整えて、わが前に立て。

6 確かに、私も神エルに対してはあなたと同列、

彼は私をも泥から摘み取ったのだ。

7 されば、私の恐怖があなたを威嚇することはないし、  
わが圧迫があなたの重荷となることもない。

8 確かに、あなたは私の耳に届くところで語っていたし、

その主張する声を私は聞いた。

9 「私は清い、罪過はない、

私は純白で、何の咎もない。

10 何たること、彼は私に数々の難点を見つけ、

私を彼の敵と見なし、

11 わが両足に枷をはめ、

わが路のすべてを見張っているとは」。

12 私はそれについて、あなたが正しくないと応じたい。

神エロフクは人より偉大であるからだ。

13 なぜ、あなたは彼に抗弁するのか、

「彼は私の言葉にどれ一つ答えない」と。

14 まことに、神エルは一つの方法で語り、

他の方法でも語るが、人がそれに気づかないだけだ。

15 夢で、夜の幻で、

人々が深い眠りに落ちる時、寢床でまどろむ時、

16 その折りに、彼は人々の耳を開き、

彼らへの警告をもつて封印する。

17 それは彼が人間を行状から引き離して、

益荒男による高ぶりを覆い隠すため。

18 彼は人の魂が穴に落ちぬよう引き止めて、

その命が手槍に渡つてしまわぬようにする。

19 人は床の上で痛みによつて諫められ、

その骨々は間断なくせめぎ合うがゆえ、

20 その命はパンを厭い、

その喉は食べたいものを通さず、

21 その肉は見る影もなく衰え、

見えなかつた骨々が浮き出で、

22 その魂は穴に近づき、

その命は死をもたらず者たちの許へと赴く。

23 もし、天使が彼のために存在し、

千に一つ、仲介者が存在するなら、

彼は人にその正道を告げて、

24 彼を憐れんで言うだろう、

「穴に下ることから彼を救い出せ、

私は贖い代を見出した」と。

25 彼の肉は若者よりも若返り、

青年時代に立ち戻る。

26 彼は神エロアに祈り、彼は彼を嘉納するので、

人は彼の顔を見上げて歓声を上げるだろう。

彼は人に彼の義を返却する。

27 その人は、人々の前で歌つて言うだろう、

「私は罪を犯し、道義を曲げたが、

彼はそれ相応にあしらわず、

28 わが魂を穴に赴かないよう贖い出し、

わが命は光を見ることができると。

29 まことに、これらすべてを神エルが行い、

二度、三度と益荒男と共に在して、

30 人の魂を穴から引き戻し、

命の光で照り輝くようにする。

31 ヨブよ、注意して私に聞け、

沈黙せよ、私が語る。

32 もし返す言葉があるなら、返してみよ、

語ってみよ、あなたを義とすることを、私は喜ぼう。

33 もし返す言葉がなければ、あなたは私に聞け、

沈黙せよ、私があなたに知恵を教えよう。

## エリフの弁論 第2回

第34章 「さらにエリフは応答して言った。

2 賢者たちよ、私の言葉を聞け、

知者たちよ、私に耳を傾けよ。

3 まことに、耳は言葉をわきまえ、

口蓋は食物の味を知る。

4 われわれも公正を選択し、

われわれの間で何が善であるかを認識しようではないか。

5 まことに、彼は言う、「私は正しいのに、

神が私の正当な論拠を取り去り、

6 私には正当な論拠があるのに、

私は欺いていると見なされ、

7 ヨブのような益荒男がどこにいる、私の矢傷は癒えないままである」と。

彼は嘲りを水のように飲む。

8 彼は不法を行う者たちに仲間入りして、

邪悪な人々と歩調を合わせている。

9 まことに、彼は言う、「益荒男に役立つものか、

神のお気に入りとなったところで何になる」と。

10 それゆえ、心ある人々は私に聞け、

神が悪を行うとは、とんでもない、

全能者が不義を行うなどとは。

11 まことに、彼は人間の行いに応じて返報する、

その人の路にふさわしいものを彼は人に出会わせる。

12 確かにそうだ、神が悪を行うことなどありえない、

全能者が公正を曲げることもない。

13 誰が彼に地上のことを委任したのか、

誰が彼にこの全世界を統治させたのか。

14 もし、彼がご自身に心を向け、

その霊とその息とを自身に取り戻した時には、

15 すべて肉なる者は共に息絶え、

人は塵に帰って行く。

16 もし分別があるなら、これを聞け、

私が語る言葉に耳を傾けよ、

17 一体、公正を憎む者が統治できようか、

あなたは正しい者、力ある者を非とするのか、

18 誰が王に向かつて「ならず者」、

高貴な者たちに「悪党」と言えようか。

19 彼は君侯たちに取り入らず、

無力な人を、高位な者を差し置いて優遇しない。

まことに、彼らはすべて彼の手の業である。

20 彼らは一瞬に、それも真夜中に死ぬ。

仲間たちは揺さぶられて過ぎ行き、

力ある者（たち）は人手によらず取り去られる。

21 まことに、彼の両の目が人の道に注がれ、

そのすべての歩みに彼は目を光らせる。

22 暗闇も暗黒も取り上げられて、

不法を行う者には、隠れるところがない。

23 まことに、彼は人に時を定めない、

人が裁きの場で神カミの前に出るその時を。

24 彼は尋問することもなく、力ある者たちを破碎し、

他の者たちを立てて、彼らの代わりとする。

25 かくして、彼は彼らの仕事を吟味して、

彼らを夜の間に覆して、打ち叩く、

26 彼らの諸々の悪のゆえ、彼らを処罰する、

人々が見ているその場所で。

27 それは彼らが、彼に従うことなく逸脱し、

彼の道をまったく見抜けなかったがゆえのこと。

28 彼は無力な人の叫びをご自身に届け、

困窮した人々の叫びを聞きたもう。

29 その方が沈黙する時、誰が非難できよう、

御顔を隠す時、誰が彼を認められよう、

それは一民族についても、個々人についても同じこと。

30 それは、不敬な輩が人々を支配して、

民に罫を仕掛けないようにするためだ。

31 まことに、人は神カミに言えるだろうか、

「私は思い違いをしていました、

もう悪いことをしませんでした。」

もう悪いことをしませんでした。」

32 私に見えていないものを教えて下さい。

もし私が不義を行ったのであれば、

もう二度といたしません」と。

33 あなたが退けたがゆえに、

彼はあなたに合せて報いるだろうか。

選択するのはあなたであって、私ではない。

あなたは何を知っているのか、語ってみよ。

34 心ある人々は私に語るだろう、

私に聞いている知恵ある人も言うだろう、

35 「ヨブは知りもしないことを語っている、

彼の弁論は賢察に基づいていない。

36 おお、ヨブは試練を受け続けるがよい、

不法な輩の一人として返答をあれこれするからだ」。

37 まことに、彼はその罪に罪過を重ね、

われわれの間で侮蔑を止めず、

神を相手に彼の言葉を捲し立てる。

### エリフの弁論 第3回

第35章 「さらに、エリフは応答して言った。

2 あなたは、これが公正だと考えるのか、

あなたは自分に言い聞かせる、

「わが正義は神エルに勝る」と。

3 まことに、あなたは言う、「一体、私に何か益するのか、

私が罪を離れても、何の得になるのか」と。

4 私はその言葉をお返しする、

あなたただけでなく、あなたの友人たちに対しても。

5 天に注意を向けて、見上げてみよ、

あなたの遙か高みの雲の群がりに目を注げ。

6 あなたが罪を犯したとて、

彼に何かをすることにいいのか、

あなたの罪過がいかに多くても、

彼に何の関わりがあるうか。

7 たとえあなたが正しく行動しても、

彼に何を与えることになろう、

彼の方も、あなたの手から何かを受け取るだろうか。

8 あなたの悪は、あなたのような人に関わり、

あなたの義は人間の一人に関わるだけだ。

9 人々は大いなる圧迫の中から叫び、

偉大な者の腕に救いを求めるが、

10 誰も言いはしない、「どこに在すのか、私を造った神は、

夜に歌を与えて下さる方は、

11 地の獣たちに勝ってわれわれに教え、

空の鳥たちに勝ってわれわれに知恵を授ける方は」と。

12 彼らがそのところで叫んでも、彼は答えない、

悪人たちの高ぶりを目の当たりにしては。

13 これは空論だ、「神は聞き給わない、  
全能者はそれに目を留めない」とは。

14 まして、「あなたはそれに目を留めない」と

あなたが言うのは。

あなたは彼の前に訴えを起こし、

彼を相手にのたうっている。

15 今は、彼の怒りを吟味する者が誰もいないので、

彼は憤りを深刻に認識しない。

16 そうであるのに、ヨブはその口を空しく開き、

知識もないのに、その言葉を重ねている。

#### エリフの弁論 第4回

第36章 1さらに、エリフは言葉を継いで言った。

2 待てしばし、あなたに告げたい、

私にはまだ、神について論じ残したことがある。

3 私は遙か昔からのわが知識を掲げ、

わが造り主にその正義を帰したい。

4 これは確かだ、わが言葉に偽りはなく、

知識の完全な者があなたと共にいる。

5 見よ、神は力強くて、見放さず、

力強くて、剛毅な者、

6 邪悪な者を生かしたままにすることなく、

困窮した人々には公義を与える者、

7 義人からその目を離すことなく、

王たちと共に彼らを位に就かせ、

座らせるので、彼らは永久に高められる。

8 もし、彼らが足枷をはめられ、

苦悩の網に絡まれるなら、

9 彼は彼らに、彼らの所業を告げる、

彼らの罪過がいかに高ぶっているかを。

10 彼はまた、彼らの耳を開いて懲らしめに耐えさせ、

彼らが不法から立ち帰るよう求める。

11 もし、彼らが聞いて服従するなら、

彼らはその生涯を幸福に過こし、

その寿命を快適に全うすることができる。

12 もし、彼らが聞き従わなければ、手槍に渡され、

知識のない者として息絶える。

13 しかし、心の不敬な輩は怒りを懐き、

彼が彼らを縛つても、助けを叫び求めない。

14 彼らの魂は若くして死に、

彼らの命は男娼たちのうちで終わる。

15 彼は苦悩する人をその苦悩によって救い、

彼らの耳をその苦しみの中で開き、

16 加えて彼は、苦痛の裂け口からあなたを誘い出す、

窮地に立たなくてよい広いところへ、

あなたの食卓が美味で満ちる憩いへと。

17 ところが、あなたは邪悪な訴えで満たされ、

訴訟と裁判の虜になっている。

18 気をつけよ、怒りがあなたを失笑に誘い込まないように、

贖い代の偉大さがあなたを誤導しないように。

19 あなたの叫びが苦痛からの脱却に身を整えるだろうか、

あなたがどれほど力んでみても、無駄な骨折りだ。

20 夜をあえぎ求めるな、

その時には人々が居場所から取り去られる。

21 気をつけて、不法に向かわないようにせよ、

あなたが苦悩によって験たまされたのは、

そのためではないか。

22 見よ、神エルはその力において高く超え出ている、

彼のような教師がどこにいる。

23 彼の道を彼に対して指図して、

「あなたは不義を行った」と言える者がどこにいる。

24 思い起こせ、彼の業を称揚せよ、

それをこそ、人々は歌い讃える。

25 万よろずの人はそれを眺望し、

人々は遠くからそれに目を注ぐ。

### 神の威光を讃える歌

26 見よ、神エルは至高で、人は知りえず、

彼の年数は究めることができな。

27 まことに、彼は水の滴りを引き上げ、

雨を蒸留して水流となし、

28 雨を群雲から滴らせ、

無数の人間の上に注ぎ出す。

29 人は理解できるだろうか、雲の広がり、

彼の天幕からの轟きを。

30 彼はその光をご自身の周りに広げ、

海の諸々の源を被う。

31 まことに、彼はそれらをもって諸国民を裁き、

食物を豊富に与える。

32 彼は閃光を両掌で覆い、

それに命じて標的にぶつける。

33 彼は雷鳴によって彼の何たるかを告げ知らせ、

不義に対しては怒りを燃え立たせる。

**第37章** 1 このことのゆえ、わが心は打ち震え、

その場からおののいて離れる。

2 彼の声の鳴動をよく聞け、

彼の口が発する轟きを。

3 彼は諸々の天の下にそれを放ち、

その閃光は地の隅々に及ぶ。

4 その後に彼の声が響き、

彼は威厳の雷鳴と共に轟き渡り、

その声の人々に聞かれる時、それらを手加減しない。

5 神は<sup>エル</sup>その声と共に不思議な業の数々を轟かせる。

彼はわれわれの知りえない偉大なことを行う。

6 まことに、彼は雪には「地に降れ」と命じ、

豪雨には「強く降れ」と命じて奔流となす。

7 彼はすべての人間の手を封じるので、

すべての人々は彼の業を知るようになる。

8 獣は巢穴に潜り、

その住処<sup>すみか</sup>に伏す。

9 暴風はその部屋から出、

寒さはその吹き散らす風がもたらす。

10 神の息<sup>ハエ</sup>によって氷ができ、

広い水面は凝固する。

11 彼は雲に水気を含ませ、

黒雲に彼の光を撒き散らす。

12 それらはまた、彼が操るままに自在に巡る、

それらに命令するすべてのことを、

その世界の地の面において行うため、

13 懲らしめのため、彼の大地のため。

彼は恵みを施すため、それらを差し向かわせる。

14 ヨブよ、これに耳を傾けよ、

立ち止まって、神の<sup>エル</sup>不思議な業の数々を認識せよ。

15 あなたは知っているのか、

彼がそれらにいか<sup>エル</sup>に定めおくかを、

彼がその黒雲を、いかに閃光で輝かせるかを。

16 あなたは知っているのか、雲の釣り合いを、

その知識の完全な者の驚く業の数々を。

17 あなたの衣は熱くなるのだ、

大地が南風に沈黙する時には。

18 そのあなたが天を、彼と一緒に叩き伸ばせるのか、

金属の鏡のように硬いこのものを。

19 われわれに告げよ、われわれが彼に何を言うべきかを、

われわれは暗闇に遮られては論陣を張れないのだ。

20 彼に対して「私が語る」などと言えるのか、

人が語れば、呑み込まれないだろうか。

21 今、誰にも光が見えなくても、

群雲の中には輝きがあり、

風が吹き渡れば、それらを掃き清める。

22 北からは黄金の光が射し込み、

恐るべき威光が神から現れ出る。

23 全能者は、われわれが見出すことができない方、

力と公正において卓越し、

義に満ちて、眨めることのない方。

24 それゆえに、人々は彼を畏れる。

彼は心に知恵ありと自認する者を一人も顧みない。

## 神の弁論とヨブの応答

### 神の弁論と挑戦 第1回

第38章 「そこで主は、嵐の中からヨブに応答して言った。

2 一体何者か、経綸を暗くするとは、

無知の言葉を連ねて。

3 あなたは益荒男らしく腰に帯を締めよ。

わたしはあなたに尋ねる、わたしに答えよ。

4 あなたはどこにいたのか、わたしが地の基礎を据えた時。

語ってみよ、あなたが分別を身につけているなら、

5 あなたが知っているなら、誰が地の寸法を決めたかを、

誰が地の上に測り縄を張ったかを、

6 地の土台はどんなところの上に沈められたかを、

誰が基石を据えたかを。

7 その時には、朝の星々は共に喜び歌い、

神の子らはこぞつて歓声を挙げていた。

8 誰が海の扉を閉じたのか、

海がその胎から迸り出た時、

9 わたしが黒雲をその衣とし、

暗雲をその巻き布とし、

10 わたしがそのためにわが境を破った時、

貫木と扉を設けて、

11 わたしは言った、「ここまでは来てよいが、

越えてはならない、

お前の波の高ぶりはそこ止まりだ。」

12 あなたは生まれてこのかた朝に命じ、

曙にその持ち場を指示したことがあるか、

13 地の縁を掴んで、

そこから邪悪な者たちを振り落とすために。

14 それは封印を押された粘土のように変わり、

彼らは衣を着た姿で立ちすくむ。

15 それらの光は邪悪な者たちから取り去られ、

振り上げられた腕は折り碎かれる。

16 あなたは海の源まで入ったことがあるか、

深淵の奥底を歩いたことがあるか。

17 死の数々の門があなたに開かれたか、

暗黒の数々の門をあなたは見たか。

18 地の広がりをお前は認識したか、

もしそのすべてを知っているなら、語ってみよ。

19 光の住むところへの道はどこか、

暗黒はどこにその場所があるか。

20 あなたはそれらをその境界に連れて行けることだろう、

その家に至る通路を認識しているのであれば。

21 あなたは知っていて当然だ、その時には生まれていたし、

あなたの日数は多いのだから。

22 あなたは雪の倉に入ったことがあるか、

雹の倉を見たことがあるか、

23 わたしはそれを苦痛の時のために、

争いと戦いの日のために取り置きしている。

24 光が分割されて進む道はどこか、

東風が地上を吹き散る道はどこか。

25 誰が洪水のために水路を開き、

稲光に道を与えたのか。

26 それは無人の地に雨を降らせ、

人影のない荒野にも雨を落とし、

27 殺伐とした荒野に潤いを与え、

乾いた地から青草を萌え出させるのか。

28 雨に父がいるだろうか、

また誰が露のしずくを生むのだろうか。

29 氷は誰の胎から生まれるのか、

天の霜は誰が生んだのか。

30 氷は姿を隠して石のようになり、

深淵の面も凝固する。

31 あなたはプレイアデスを鎖で結び、

オリオンの綱を外せるか。

32 ヒアデスをその時に引き出し、

またアルデバランとその子らを一緒に導けるか。

33 あなたは天の諸々の法則を知っているか、

その規則書を地上で実施できるか。

34 あなたは雲にまであなたの声を届かせて、

大水があなたを覆うようにできるだろうか。

35 あなたは稲妻たちを派遣し、

彼らが「ここにおります」とあなたに答えるだろうか。

36 誰が鶴とぎに知恵を与え、

雄鶏に分別を授けたのか。

37 誰が知恵によって雲の群がりを広げ、

天の水瓶を傾けることができるだろうか、

38 塵が注ぎ出されて形をなし、

塊が互いに結びつく時に。

39 あなたは雌獅子のために獲物を狩り、

若獅子たちの食欲を満たすことができるか、

40 彼らがその巢穴で屈み、

藪の中に潜んで待ち伏せしている時に。

41 誰が鳥にその餌を備えるのか、

その子らが神カミに向かつて叫び、

食べ物がなくさまよう時に。

**第39章** <sup>1</sup>あなたは岩山羊が子を産む時を知っているか、

雌鹿のお産を見守ったことがあるか。

<sup>2</sup>あなたは彼女たちの月が満ちるのを教え、

出産の時を知ることができるか。

<sup>3</sup>彼女たちは屈んで子らを産み落とし、

彼女たちの胎の実りを放り出す。

4 その子らは強くなって野で育つと、  
彼らは出て行って、居たところに帰らない。

5 誰が野ろばに自由を与えたか、  
野生のろばの繋ぎを解いたか。

6 わたしは彼の住処を荒野とし、  
その生息地を塩地に決めたのだ。

7 彼は町の喧噪を嘲笑い、  
御者が声を張り上げても耳を貸さず、

8 彼は餌場の山々を見回り、  
青草をくまなく探し求める。

9 野牛が喜んであなたに仕えようとするか、  
彼があなたの飼葉桶の傍らで夜を過ごすであろうか、  
あなたは野牛に綱を付けて畝に引き出せようか、  
あなたの後ろについて谷間の地を鋤で耕すであろうか。

11 彼の力が強いので、あなたは彼に頼り、  
あなたの労働を彼に委ねることができるか。

12 あなたは信じるのか、彼が戻って来て、  
あなたの穀粒を打ち場で集めるのだ、と。

13 駝鳥は喜び勇んで羽を振るが、  
優雅な羽ばたきと翼を備えているか。

14 彼女は地に幾つもの卵を産み棄て、  
土の中でそれらが温まるにまかせ、

15 それが脚に踏まれることは念頭になく、  
野の獣に踏み潰されることも忘れている。

16 彼女はその子らが自分の子でないようにつらく当たり、  
その苦労が水の泡になることへの恐れがない。

17 まことに、神は知恵を彼女に忘れさせ、  
分別を割り当てなかつたのである。

18 しかし彼女が高々と羽を広げる時には、  
馬とその乗り手とを尻目にする。

19 あなたは馬に威力を与え、  
その首を雷で装い、

20 蝗いそのように跳ねさせることができるか、  
その鼻息の威光は恐ろしい。

21 彼らは谷間の土を蹴つて、力に喜びを覚え、  
走り出て武器に立ち向かい、

22 恐怖を嘲笑って怖じけることなく、  
剣を前にしても引き返さず、

23 彼の上で矢筒が音を立て、  
槍と投げ槍とがきらめき、

24 激震と騒動の時、彼は地を呑み込み、

彼がラツバの音に立ち止まることはなく、

25 ラツバが鳴る度にヒヒーンといなき、

遠くから戦を嗅ぎつける、

隊長の怒号と鬨こゑの声を。

26 鷹はあなたの知力で舞い上がるのか、

その翼を南に向けて広げる時に。

27 鷺はあなたが命ずるので天翔けり、

その巢を高みに架けるのであるうか。

28 彼は岩に住み着いて、夜を過ごす、

尖った岩、砦の上で、

29 そこから獲物を探し求め、

その目は遠くから見定め、

30 その雛たちは血をすすす。

殺されたものところには彼もいる。

2 全能者シヤツダと争う者は彼を諫めるつもりか、  
神エロアハを訓戒する者はこれに答えよ。

### ヨブの応答 第1回

3 そこでヨブは、主に応答して言った。

4 まことに、私は小さい者です、

あなたに何と返答できません、

私はわが手を口に置くだけです。

5 私は一度語りましたが、答えることはできません。

二度語りましたが、これ以上は申せません。

### 神の弁論と挑戦 第2回

6 そこで主は風の中から、ヨブに応答して言った。

7 あなたは益荒男らしく腰に帯を締めよ。

わたしはあなたに尋ねる、わたしに答えよ。

8 一体、あなたはわが統治権を粉碎して、

わたしを非とし、自分は正しいと主張するのか。

9 本当に、あなたは神エルのような腕を持っているか、

彼のようにその声を轟き渡らせることができるか。

10 あなたは高揚と高遠とを身に飾り、

### 神の応答要求 第1回

第40章 1そこで主は、ヨブに応答して言った。

威光と光輝を着てみたらどうだ。

11 あなたの怒りの激情を迸らせて、

高慢な者を見たら、これをすべて低頭させ、

12 高慢な者を見たら、これをすべて屈ませ、

邪悪な者たちをそのところで押し潰せ。

13 彼らすべてを一括して塵の中に埋め、

彼らの顔を地下牢に繋ぎ止めよ。

14 されば、わたしもあなたを賞讃する、

あなたの右の手が、あなたを勝利させたからだ。

15 とくと見よ、べヘモットを、

わたしがあなたと共に造ったもの、

雄牛のように草を食むものを。

16 とくと見よ、彼の腰の力を、

その腹の筋力を。

17 その尾はレバノン杉のように垂れ下がり、

その股の腱は絡み合う。

18 その骨格は青銅の管であり、

その肢体は鉄の棒だ。

19 彼は神エルの制作の第一のものだ。

彼の創造者は、彼に剣を引き付けさせた。

20 まことに、山々は彼のために産物を持ち来たり、

野のすべての獣はかしこで笑いさざめく。

21 彼は刺の灌木の下に伏し、

沼の葦の中に隠れている。

22 灌木はこれを覆って陰を作り、

川柳がこれを囲む。

23 たとえ、川が押し寄せても彼は慌てず、

ヨルダンがその口に殺到しても平然としている。

24 その両の目を押さえて彼を捕獲できるか、

制御棒を鼻に刺し貫けるか。

25 あなたはレビヤタンを魚鉤で引きずり出せるか、

綱でその舌を押さえることができるか、

26 紐でその鼻を押さえ、

その顎に鉤を突き通せるか。

27 彼があなたにしきりに嘆願し、

あなたに穏やかな言葉で語るだろうか。

28 彼はあなたと契約を結び、

あなたが彼を終身奴隷とできるだろうか。

29 あなたは小鳥に対するように彼と戯れ、

あなたの小娘たちのために、

彼を結わえておけるだろうか。

30 仲買人たちが彼について取り引きし、

商人たちの間で彼を切り売りできるだろうか。

31 あなたは彼の皮を箆すくで満たし、

その頭に魚の銚もりを突き立てられるか。

32 あなたの手を、彼の上に置いてみよ、

戦いを記憶せよ、繰り返しはならない。

**第41章** 1 彼に望みを置いて、人は裏切られ、

彼を一目見ただけで、平伏するだろう。

2 彼を目覚めさせるほどの向こう見ずはいない。

まして、このわたしの面前に誰が立つことができよう、

3 誰でもわたしに対決するなら、わたしはお返しする。

天が下のすべては、わたしのものである。

4 わが言葉は止まらない、彼の体軀について、

彼の威力の横溢と彼の装備の見事さについては。

5 誰が彼の外装を剥ぎ取り、

その一対の銜はばの間に入れるか。

6 その顔の戸を誰がこじ開けられるか、

その歯並びを恐怖が取り巻いている。

7 誇りは盾の隊列、

固く閉ざす紋章。

8 それらは互いに密接して、

風もその間を抜けられず、

9 互いに連携して密着し、

絡み合って引き離されない。

10 彼のくしゃみは光を放ち、

さながらその両の目は曙のまぶた、

11 その口からは松明が出て、

火花が飛び散るようで、

12 その鼻の穴からは煙が噴き出し、

さながら激しく煽り立てられた鍋、

13 その息は炭火を起こし、

その口からは炎が出る。

14 その首には強さが宿り、

彼の前では恐怖が踊る。

15 肉付きよく垂れた腹は固着し、

互いに溶接されてびくともしない。

16 その心臓は固められて石のよう、

臼の下石のように堅固だ。

彼こそは誇り高き獣たちすべての王である。

17 彼が身を起こすと神々も恐れ、  
彼が潰しにかかる、彼らは逃げ惑う。

18 人が剣を引き抜いても歯が立たず、  
槍も割り石も鋸やじりも役立たない。

19 彼は鉄を藁と見なし、  
青銅を朽ちた木と見なす。

20 弓の子も、彼を退散させられず、  
投擲用の石山も藁屑に変わる。

21 彼は棍棒も藁屑同然と見なし、  
投槍の騒ぎを嘲笑う。

22 彼の下腹には鋭い瀬戸かけ、  
脱穀板のように泥の上に跡を残す。

23 彼は深淵を鍋のように沸き返らせ、  
海を香油の調合鍋のようにする。

24 彼が通った跡は輝き、  
人は深淵を白髪と見なす。

25 地上には彼に比肩できる者はいない、  
彼は恐れ知らずに造られた者だ。

26 彼はすべての高ぶる者を睨む。

## ヨブの応答 第2回

第42章 「そこでヨブは、主ヤハウェに応答して言った。

2 あなたはご存じです、あなたは何ごともでき、  
あなたにはどんな企ても実行不可能ではないことを。

3 「一体何者か、無知であるのに、  
経綸を覆い隠すこの者は」。

そうです、私は認識していないことを公言したのです。  
私を超えた不思議な業の数々、

それを私は理解してはいないので。

4 「どくと聞け、このわたしが語るのだ、

わたしはあなたに尋ねる、わたしに答えよ」。

5 私はあなたのことを耳で聞いていました、  
しかし今、私の眼はあなたを見ました。

6 それゆえ、私は退けます、

また塵灰であることについて考え直します。

## 終 曲

7 主ヤハウェはこれらの言葉をヨブに語った後、主ヤハウェはテマンの

人エリファズに向かつて言った。「わたしの怒りがあなたと、あなたの二人の友に向かつて燃え上がる。なぜなら、あなたがたはわたしに対して、わが僕ヨブのように確かなことを語らなかつたからである。8 今、あなたがたは自分たちのために雄牛七頭、雄羊七頭を取つて、わが僕ヨブの許に行き、燔祭をあなたがたのために献げなさい。そうすれば、わが僕ヨブはあなたがたを庇うための祈りを献げるであろう。わたしは唯々彼の願いを聞き入れ、あなたがたがわたしに対して、わが僕ヨブのように確かなことを語らなかつたという理由で、わたしはあなたがたの愚かさに応じた扱いをしないであろう」。

9 そこでテマンの人エリファズ、シユアハの人ビルダド、ナアマの人ツォファルは行つて、主が彼らに語つた通りにした。そこで主はヨブの願いを聞き入れた。

10 彼がその友人のために祈りを献げた時、主はヨブの境遇を転換した。主はヨブのすべての所有を二倍に増やした。11 そこで彼のすべての兄弟、すべての姉妹、すべての知己が彼の許を訪れ、彼の家で彼と共に食事をした。彼らは、主が彼の上に下したすべての災いについて彼に同情を表し、彼を慰藉して、彼に各々一ケシタと金の環一つを贈

つた。

12 主は、その後のヨブを以前に増して祝福した。彼の保有は羊が一万四千頭、らくだが六千頭、牛が千対、雌ろばが千頭となつた。13 また、彼には七人の息子と三人の娘が与えられた。14 彼は長女の名をエミマ、次女の名をケツィア、三女の名をケレン・ハッピークと名づけた。15 ヨブの娘たちのような美しい女は、地のどこにも見出せなかつた。その父は彼女らに、その兄弟たちと一緒に相続財産を与えた。

16 この後、ヨブは百四十年を生き、彼の子らを、また彼らの子らを四代に及ぶまで見届けた。17 彼は年老い、その日々には満ち足りて死んだ。

このPDFファイルは並木浩一著『ヨブ記注解』（日本キリスト教団出版局、二〇二一年刊行）に収録されたヨブ記の訳文を改訂の上で収録したものです。同『ヨブ記を読もう 苦難から自由へ』（日本キリスト教団出版局、二〇二四年刊行）のヨブ記引用はこの訳に拠っています。

読みづらい漢字のほか、「神」「主」「創造主」については、原語の片仮名表記を原則としてルビに付しました。

本冊子の著作権は訳者に帰属します。訳者および作品名を明示し、非営利目的であり、内容を無断で改変しない限り、再配布できます。

ヨブ記 並木浩一訳 © 2024 by 並木浩一 is licensed under CC BY-NC-ND 4.0.  
To view a copy of this license, visit <http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

『ヨブ記注解』『ヨブ記を読もう』特典 web 版 (非売品)

ヨブ記 並木浩一訳

---

2021年8月31日 初版発行

© 並木浩一 2021

2024年2月1日 再版発行

訳者 並木浩一

発行 日本キリスト教団出版局

169-0051 東京都新宿区西早稲田2丁目3の18

電話・営業 03 (3204) 0422、編集 03 (3204) 0424

<https://bp-ucej.jp>

---